

# 事業報告書

平成25年度  
(第4期事業年度)

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

地方独立行政法人神奈川県立病院機構



# 目 次

法人の概要	1
1 名称 2 所在地 3 設立年月日 4 設立目的 5 資本金の状況	
6 組織(1) 役員 (2) 職員の状況 (3) 組織図 (4) 会計監査人	
7 業務(1) 病院の設置 (2) 業務の範囲 (3) 病院の位置図	
平成25年度における業務実績報告	
1 法人の総括と課題	4
2 大項目ごとの特記事項	
(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	6
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項	8
(3) 財務内容の改善に関する事項	8
3 病院ごとの取組状況	
(1) 本部事務局	10
(2) 足柄上病院	10
(3) こども医療センター	12
(4) 精神医療センター(芹香病院・せりがや病院)	14
(5) がんセンター	16
(6) 循環器呼吸器病センター	18
4 項目別の業務実績	
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
1 質の高い医療の提供	
(1) 医療機能の充実	
ア 足柄上病院	20
イ こども医療センター	21
ウ 精神医療センター 芹香病院・せりがや病院	23
エ がんセンター	26
オ 循環器呼吸器病センター	28
カ 医療機能を評価する指標の設定	30
(2) 医療機器・施設整備の推進	
ア 医療機器整備の推進	35
イ 施設整備の推進	36
(ア) がんセンター総合整備の推進	36
(イ) 精神医療センター総合整備の推進	37
(3) 地域医療連携の強化	37
(4) 臨床研究の推進	
ア 臨床研究	39
イ 治験	41

## 2 安全で安心な医療の提供

- (1) 安全で安心な医療を支える医療体制の整備 . . . . . 4 2
- (2) 医療安全対策の推進 . . . . . 4 3
- (3) 感染症対策の強化 . . . . . 4 5
- (4) 災害対策の推進 . . . . . 4 6
- (5) 情報セキュリティの強化 . . . . . 4 7

## 3 患者の視点に立った病院運営

- (1) 患者にとって分かりやすい医療の提供 . . . . . 4 7
- (2) 県民への病院・医療情報提供の充実 . . . . . 5 2
- (3) 患者の利便性の向上 . . . . . 5 3
- (4) ボランティア・NPOとの協働 . . . . . 5 5

## 4 医療人材の確保と育成

- (1) 医師の確保と育成 . . . . . 5 6
- (2) 看護師の確保と育成 . . . . . 5 7
- (3) コメディカル職員等の確保と研修の充実 . . . . . 5 8
- (4) 勤務環境の改善 . . . . . 5 9

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 業務運営体制の確立 . . . . . 6 0

### 2 効率的・効果的な業務運営と経営改善

#### (1) 効率的・効果的な業務運営

- ア 人事・予算の弾力的運用 . . . . . 6 0
- イ 事務職員の専門性の向上 . . . . . 6 0
- ウ 職員の経営参画意識の向上 . . . . . 6 1
- エ ITの活用による効率的な医療提供の推進 . . . . . 6 1
- オ 効率的な事務執行の推進 . . . . . 6 1

#### (2) 経営改善の取組

- ア 収益の確保 . . . . . 6 2
- イ 費用の削減 . . . . . 6 4

### 第3 決算の状況 . . . . . 6 5

### 第4 その他業務運営に関する重要事項 . . . . . 6 7

## 法人の概要

### 1 名称

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

### 2 所在地

横浜市中区本町 1 - 2

### 3 設立年月日

平成22年 4月 1日

### 4 設立目的

神奈川県における保健医療施策として求められる高度・専門医療等の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする。

### 5 資本金の状況

出資者（設立団体） 神奈川県

資本金の額 13,556,701,044円

### 6 組織

#### (1) 役員

（平成 25 年 4 月 1 日）

役 職	氏 名
理事長	大崎 逸朗
副理事長	高橋 徳男
理 事	山本 裕司（足柄上病院院長）
	康井 制洋（こども医療センター総長）
	岩間 久行（精神医療センター所長）
	赤池 信（がんセンター総長）
	廣瀬 好文（循環器呼吸器病センター所長）
監 事	川島 志保（弁護士）
	戸張 実（公認会計士）

#### (2) 職員の状況（平成25年 4月 1日）

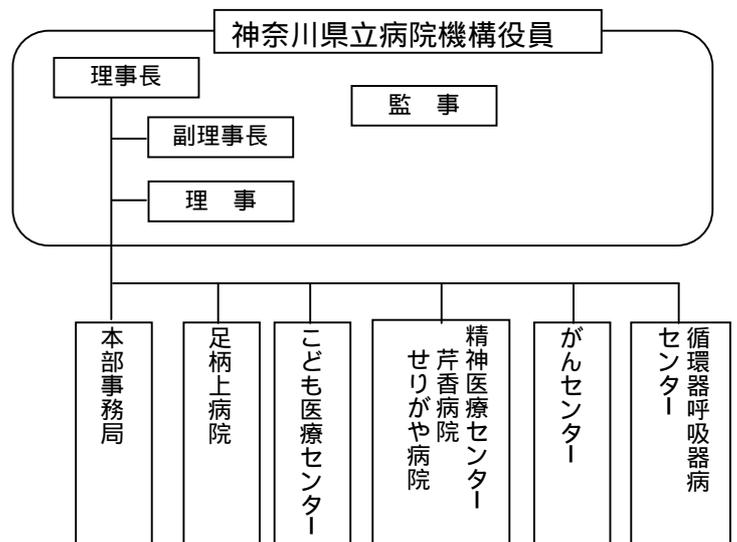
医 師	296人
看護師	1,506人
薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等	305人
事務職等	201人
技能職	60人
合 計	2,368人

#### (3) 組織図

右図のとおり

#### (4) 会計監査人

新日本有限責任監査法人



## 7 業務

### (1) 病院の設置

病院名	基本的な機能	診療科目	病床数
神奈川県立足柄上病院 足柄上郡松田町松田惣領 866-1	1 地域の中核的医療機関としての患者の診療(助産を含む。)及び看護 2 検診 3 健康相談及び保健衛生指導 4 医師その他の医療関係技術者の研修	内科、精神科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科	264
神奈川県立こども医療センター 横浜市南区六ツ川2-138-4	1 疾病を有する小児、妊産婦等の診療及び看護 2 健康相談及び母子保健衛生指導 3 小児医学及び周産期医学に関する調査及び研究 4 医師その他の医療関係技術者の研修 5 障害児入所施設(肢体不自由のある児童に係る病床数(50床)及び重症心身障害児に係る病床数(40床))の運営	母性内科、児童・思春期精神科、神経内科、小児科、循環器内科、アレルギー科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科	419
神奈川県立精神医療センター 荊香病院 横浜市港南区荊が谷2-5-1  神奈川県立精神医療センター せりがや病院 横浜市港南区荊が谷2-3-1	1 精神障害者全般の診療及び看護(荊香病院) 2 アルコール依存症患者、薬物依存症患者、神経症患者等の診療及び看護(せりがや病院) 3 精神科医療に関する調査及び研究(荊香病院、せりがや病院) 4 医師その他の医療関係技術者の研修(荊香病院、せりがや病院)	精神科	388
神奈川県立がんセンター 横浜市旭区中尾1-1-2 (移転後：横浜市旭区中尾2-3-2)	1 がんその他の疾患患者の診療及び看護 2 がんに関する調査及び研究 3 医師その他の医療関係技術者の研修	血液内科、腫瘍内科、精神科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、循環器内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、腫瘍整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、放射線科、放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科、緩和ケア内科	415
神奈川県立循環器呼吸器病センター 横浜市金沢区富岡東6-16-1	1 結核性疾患患者、呼吸器疾患患者及び循環器疾患患者の診療及び看護 2 肺疾患及び心臓疾患に関する専門検診 3 循環器疾患及び呼吸器疾患に関する調査及び研究 4 医師その他の医療関係技術者の研修	呼吸器内科、循環器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、麻酔科、放射線科	239

### (2) 業務の範囲

- ア 医療を提供すること。
- イ 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ウ 医療に関する技術者の研修を行うこと。
- エ 児童福祉法に規定する障害児入所施設を運営すること。
- オ 災害時における医療救護に関すること。
- カ 上記に規定する業務に附帯する業務を行うこと。

(3) 病院の位置図



<p style="text-align: center;"><b>足柄上病院</b></p> 	<p style="text-align: center;"><b>こども医療センター</b></p> 
<p style="text-align: center;"><b>精神医療センター 芹香病院</b></p> 	<p style="text-align: center;"><b>精神医療センター せりがや病院</b></p> 
<p style="text-align: center;"><b>がんセンター</b></p> 	<p style="text-align: center;"><b>循環器呼吸器病センター</b></p> 

## 平成25年度における業務実績報告

### 1 法人の総括と課題

地方独立行政法人神奈川県立病院機構（以下「県立病院機構」という。）は、中期目標に基づき作成した中期計画及び平成25年度年度計画の達成に向け着実に取組を進めた。

#### (1) 重点的な取組

##### こども医療センターにおける小児がん拠点病院としての取組（小項目5参照）

こども医療センターは、小児がん拠点病院として、新規に59人の小児がん患者の入院を受け入れたほか、緩和ケア外来、外来化学療法室の開設及び小児がん経験者の内分泌外来など外来診療の充実や、患者・家族を精神面から支える緩和ケア普及室の設置などの取組を推進した。

##### がんセンターの総合整備の推進（小項目23参照）

がんセンターは、医療機能充実のための施設、設備等の整備を計画通り進め、新病院を平成25年11月に開院した。

また、重粒子線治療の平成27年12月の開始を目指し、引き続き建屋の建設及び装置製造を進めた。

##### 精神医療センターの総合整備の推進（小項目24参照）

精神医療センターは、新たな精神科医療への対応や芹香病院とせりがや病院の統合による効率的な運営を図るため、平成26年12月の新病院の開院に向けて着実に工事を進めた。

##### 業務運営体制の改善（小項目47参照）

会計規程及び契約事務取扱規程を見直し、予算執行及び契約規程に係る権限の一部を病院事務局長等から副事務局長等に移管し、意思決定の迅速化及び事務執行の効率化を図った。

#### (2) 予算の弾力的な運用（小項目49参照）

備品購入費の予算において経営成績を反映した弾力的な配分を行い、経営意識の向上に資することができた。

#### (3) 医療人材等の確保（採用・定着・人事評価）（小項目43～45・50・60参照）

看護師について、計11回の採用試験を実施するなど人材の確保に努めるとともに、採用後についてもプリセプターシップをはじめとするきめ細かな研修の実施等により、定着対策に取り組んだ。また、新卒看護師の業務における不安解消の一助として、e-ラーニングによる研修制度を開始した。（小項目44参照）

事務職や福祉職、コメディカル職種などについて、主に新卒者を対象とした一般採用試験のほか、即戦力を確保するための経験者採用試験を併せて実施し、職員の確保に努めた。（小項目45・50参照）

さらに、評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めた。（小項目60参照）

#### (4) 経営改善の取組（小項目55～57参照）

平成25年度は診療報酬改定がなかったものの、各病院の特性に応じた的確に施設基準を取得するとともに、既存の施設基準についても見直しを行い、収益の確保に努めた。また、分べん介助料及びセカンドオピニオンに係る料金について、各病院が負担しているコストや診療報酬を踏まえた金額に改定を行った。（小項目55・56参照）

一方、費用面においては、薬品及び診療材料並びに検査試薬の共同入札に引き続き取り組んだ。診療材料については、新規に神奈川リハビリテーション病院及び七沢リハビリテーション病院脳血管センターも加え、スケールメリットを生かした入札を行うことで、費用の縮減に努めた。また、新たに医療機器についても共同購入を行うことで、さらなる経費の縮減に取り組んだ。（小項目57参照）

#### (5) 課題

平成24年度業務実績の総括の課題として掲げた「総合整備の推進」、「小児がん拠点病院としての取組」、「収益の確保」及び「職員の経営参画意識の向上」については、平成25年度の業務実績の重点的な取組に位置づけ、取組の強化を図った。

今後とも継続して質の高い医療を県民に提供するため、県立病院機構の医療機能を充実するとともに、新たな課題にも対応できる経営基盤の強化を進める。

##### **がんセンター総合整備の推進（小項目23参照）**

がんセンターは、平成27年12月の重粒子線治療の開始に向け、引き続き建屋建設及び装置の製造を着実にを行うとともに、収支計画や体制整備など様々な課題への検討を進めていく必要がある。

##### **精神医療センター総合整備の推進（小項目24参照）**

精神医療センターは、平成26年12月の開棟に向けて、着実に工事を進めるとともに、思春期病棟をはじめとした新たな精神科医療への対応や病棟などの円滑な運営方法等について検討を進めていく必要がある。

##### **収益の確保（小項目54～56参照）**

精神医療センターの新病院開院や規模拡大したがんセンターの運営通年化など、費用の大幅増の要因はあるものの、地域医療連携の推進などによる患者数の増加、診療報酬改定を踏まえた施設基準の確実な届け出、審査機関による査定に対する対策及び未収金確保対策などの取組を進めることにより、収益を着実に確保し、計画を達成する必要がある。

##### **職員の経営参画意識の向上（小項目51参照）**

職員の経営参画意識を向上するため、各種研修についてその内容を検証し、充実を図るとともに、全ての職種、部門で経営意識を醸成するよう、経営実績を反映した予算の配分について引き続き検討する必要がある。

## 2 大項目ごとの特記事項

県立病院機構は、県の政策医療の実施機関として、高度・専門医療の提供、地域医療の支援等を行う責務を担っており、その上で、質の高い医療を安全で安心な形で、かつ患者の視点に立って提供していくため、(1)県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、(2)業務運営の改善及び効率化、(3)財務内容の改善について、の3つの大項目を目標として掲げ、その目標を達成するための取組を行った。

### (1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

年度計画で掲げた目標を達成するため「質の高い医療の提供」「安全で安心な医療の提供」「患者の視点に立った病院運営」「医療人材の確保・育成」の4つの面から取り組み、医療の充実を図った。

#### ア 質の高い医療の提供

##### 足柄上病院（小項目1～4参照）

内視鏡検査及び治療を強化するため、消化器内科を設置し診療体制を充実するとともに、侵襲の少ない鏡視下手術に積極的に取り組むなど、地域の中核的医療機関及び救急医療機関として医療機能の充実を図った。

##### こども医療センター（小項目5～8参照）

県内唯一の小児がん拠点病院として、小児がん医療の牽引役を果たした。また、総合的な小児緩和ケアに積極的に取り組んだほか、NICUを中心とした周産期医療及び他の医療機関では実施が困難な新生児などに対する手術を実施し、小児の高度・専門医療機関の役割を果たすとともに、小児領域の難病・希少疾患の治験において全国で屈指の実績を挙げた。

##### 精神医療センター芹香病院（小項目9～11、24参照）

精神科救急の基幹病院として、救急・急性期医療に積極的に取り組むとともに、ストレスケア医療における復職支援に係る取組を進めた。

また、精神医療センター総合整備事業として、平成26年12月の新病院開院に向け、工事を進めた。

##### 精神医療センターせりがや病院（小項目12参照）

アルコール・薬物依存症専門病院として、依存症患者への専門治療プログラムの実施などにより依存症医療の充実を図った。

##### がんセンター（小項目13～17参照）

専門性の高い高度な手術の実施、高精度放射線治療装置（リニアック）等による放射線治療及び化学療法を実施するなど、県民に質の高いがん医療を提供するとともに、都道府県がん診療連携拠点病院として、5大がんの共通地域連携パスの取組を進めた。

新病院を予定通り平成25年11月に開院し、CTやMRIなど機能充実を図る機器等を整備した。

また、重粒子治療施設については、平成27年12月の治療開始に向けて建屋建設及び装置製造を進めた。

### **循環器呼吸器病センター（小項目18～20参照）**

循環器、呼吸器疾患の専門病院として、より迅速な対応と質の高い医療を提供するため、診療センター化の取組を進めるとともに、糖尿病外来やリハビリテーションの充実を図った。

また、結核病床を有する数少ない医療機関として、結核医療を着実に実施した。

### **イ 安全で安心な医療の提供（小項目30～34参照）**

各病院においてインシデント報告分析システムの運用開始や、重大事故に繋がる事例の共有化などの事故防止への取組を実施するとともに、平成25年5月に、院内での苦情等の初期対応を円滑に行うための院内ADR検討会議を新たに設置し、研修を実施するなど、医療安全対策の一層の充実・強化を図った。（小項目31参照）

在宅時の褥瘡発生防止を目的とした院外研修会の実施など、地域に対する褥瘡防止への取組を推進した。

また、NST（栄養サポートチーム）によるミキサー食注入に関するマニュアル本を刊行するなど、医療従事者が連携したチーム活動による患者支援の充実を図った。（小項目30参照）

各病院において、災害発生時に備え医薬品等を備蓄するとともに、総合訓練や夜間想定訓練など、目的や状況を明確にした実践的な防災訓練を実施した。（小項目33参照）

### **ウ 患者の視点に立った病院運営（小項目35～42参照）**

治療に関する経済的な問題や病気に対する不安・悩みなど、多様な相談に対応するため相談室の体制整備に取り組んだ。また地域医療機関の訪問による連携強化や家族会の実施など、患者や家族が安心して医療を受けられるよう、医療・福祉相談の充実を図った。（小項目36参照）

患者満足度調査によりニーズを把握し、改善を図るとともに、待ち時間に対する心理的な負担を軽減する取組を行うなど、患者サービスの向上に努めた。（小項目38・40参照）

### **エ 医療人材の確保・育成（小項目43～45・50・60参照）**

看護師については、全国的な看護師不足の中で必要な人材を確保するため、全病院を対象とする採用試験を5回、特定の病院への配属を目指す配属確定型試験を6回、計11回実施することで、平成26年4月1日現在で1,526人となった。（小項目44参照）

また、事務職や福祉職のほか、薬剤師などのコメディカル職種については、一般採用試験に加え、即戦力となる経験者を対象とする経験者採用試験の2つの方法により、必要な人材を確保した。（小項目45・50参照）

このように、県民に安全で安心な医療を提供し、かつ円滑な病院運営が行えるよう適切な医療人材の確保に努めた結果、常勤職員数は平成26年4月1日現在で前年同期比25人増となる2,393人を確保した。（別表参照）

人材育成では、看護師については、キャリア形成体系に基づく研修を実施するとともに、専門看護師、認定看護師等の有資格者をその能力が発揮できるような配置を行い、事務職及びコメディカル職員については、業務の特性に応じた研修を実施する等、職員の資質の向上を図った。（小項目44・45・50参照）

さらに、評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めた。（小項目60参照）

## 【職員採用等の状況】

職 種	平成25年度				平成26年度		増減数 B-A
	4月1日職員数 A(うち採用数)	平成25年度中増減要素		3月31日 職員数	4月1日職員数 B(うち採用数)		
		4月2日以降 採用数	退職者等				
医 師	296人 (66人)	7人	59人	244	305人 (61人)	9	
看護師	1,506人 (146人)	18人	154人	1,370	1,526人 (156人)	20	
薬剤師、診療放射線技 師、臨床検査技師等	305人 (27人)	0人	9人	296	311人 (15人)	6	
事務職等	201人 (36人)	0人	15人	186	203人 (17人)	2	
技能職	60人 (0人)	0人	12人	48	48人 (0人)	12	
合 計	2,368人 (275人)	25人	249人	2,144	2,393人 (249人)	25	

### (2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項

#### ア 業務運営体制の確立（小項目47参照）

各病院の医療職及び看護職を副院長に登用し、職員への経営状況の周知を効率的に行い、職員の経営意識の向上に努めた。また、会計規程等を見直し、権限の一部を下位職へ移管するなど、意思決定の迅速化や事務執行の効率化を図った。

#### イ 効率的・効果的な業務運営（小項目48～53参照）

備品購入費の配分について、病院ごとの経営成績を反映した配分方法の導入を行い、経営意識の向上を推進した。（小項目49参照）

各病院において、電力購入の入札におけるPPS（特定規模電気事業者）との契約の締結や、SPD方式（院内物流管理システム）の導入、また委託業務見直しに関するコンサルタントの導入など、経費の節減及び効率的な業務運営を推進した。（小項目53参照）

#### ウ 経営改善の取組（小項目54～58参照）

収益面では、新規の施設基準取得や分べん介助料及びセカンドオピニオン料金の見直しにより、その確保に努めた。（小項目56参照）

一方費用面では、後発医薬品の採用拡大に努めたほか、共同購入対象品目を従前の消耗品だけでなくシリンジポンプ等の備品も対象とする取組を行った。また、委託料などの固定費用について、仕様を見直すことにより、費用の縮減に努めた。（小項目57・58参照）

### (3) 財務内容の改善に関する事項

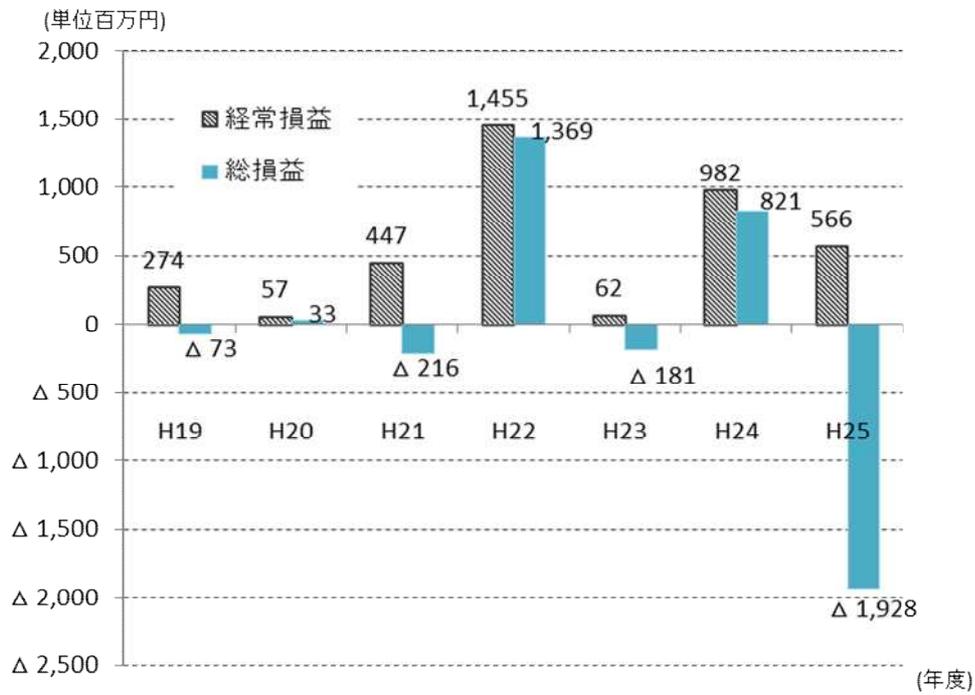
芹香病院における医療観察法病棟運用の通年化などによる入院収益の増や、がんセンターの新病院の開院による外来患者数の増などにより、医業収益は前年度対比で8億400万円増加した。

費用面では、がんセンターのPFI導入による委託料の大幅な増があったものの、こども医療センター及び芹香病院における院外処方の推進や給与費の減などにより、医業費用の増を5億3,500万円に抑制した。

これらにより、経常収支比率、医業収益に対する給与費比率及び医業収支比率とも、

健全な経営を行うための計画目標を達成した。

経常収支比率	99.5%以上の目標に対し	101.2%
医業収益に対する給与費比率	65.4%以下の目標に対し	64.7%
医業収支比率	125.1%以下の目標に対し	124.1%



### 3 病院ごとの取組状況

#### (1) 本部事務局

法人本部事務局は、経営改善や人材の確保・育成など法人共通の課題について着実な取組を行った。

#### ア 経営改善への取組（小項目47参照）

月次決算及び四半期ごとの予算執行状況を踏まえた経営分析等を行うとともに、各病院で経営改善に取り組んだ事例の発表を行い、他病院で参考とした。

#### イ 人材の確保・育成（小項目44・50・60参照）

修学資金貸付制度の借受生のうち平成25年度の卒業生20人を希望の病院に配属し、確保対策として効果的であったほか、配属確定型の採用試験を実施した。さらに、看護師の育成とその定着を図るため、e-ラーニングによる研修制度を開始した。（小項目44参照）

病院経営の中核を担う事務職については、病院経営分析能力等の養成・強化を図るため、簿記研修を実施した。また、若手職員を対象に、配属先以外の病院において業務を体験する現場研修を実施した。（小項目50参照）

さらに、評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めるとともに、人事評価実施に伴う職員への面談などを通して職員の能力開発や人材育成への活用を図った。（小項目60参照）

#### (2) 足柄上病院

足柄上病院は、足柄上地域（1市5町：南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町）を主たる医療圏として急性期医療を担う中核的病院であり、地域に必要な各種政策的医療を提供している。

当該地域は、県内でも高齢化の進んだ地域であるため、「生活習慣病の予防」「がんをはじめとする3大成人病の治療」「生活機能障害に対するケア」などの「高齢者総合医療」に取り組んでいる。

#### ア 医療の充実

##### 救急医療（小項目3参照）

HCUを運用して、年間を通じて集中的治療管理を行うなど、救急医療の機能充実に努めた。

また、小田原市消防本部の要請に基づき、救急隊救急救命士の再教育研修等を実施したほか、秦野市消防本部など近隣消防救急隊との研修会を開催するなど連携強化に努め、救急患者のスムーズな受入れを図った。

##### 産科医療（小項目4参照）

院内助産システムにより助産師主導の分べんを実施するとともに、助産師による妊婦検診や保健指導を行う助産師外来や母乳育児外来など、妊産婦に対するきめ細かな指導等に取り組んだ。

##### 高齢者総合医療（小項目2参照）

スマイル病棟 など4病棟において、肺炎や脳梗塞等の高齢患者に対し、医師、看

看護師及び薬剤師等のコメディカル職員による多職種チームが家族と協力して疾病により生じる患者の生活機能障害を包括的に評価し、患者に最適な急性期医療を提供するチーム医療を実施するなど、退院後の日常生活の質の向上に取り組んだ。

また、摂食機能障害患者の機能向上のため、摂食・嚥下診療計画書等により、患者に応じた口腔ケアや嚥下体操等を実施し、摂食・嚥下機能の向上に努めた。

その他、地域における生活習慣病予防として医学講座等を開催し、住民の意識向上に努めた。

スマイル Smile(微笑) Multidisciplinary(専門的多職種)

Integrate(統合) Listen(傾聴) Empathy(共感) の頭文字をとったもの

### 患者サービスの向上（小項目40参照）

外来待合に医療情報提供用ディスプレイやタッチパネルパソコンによる認知症のスクリーニング用「もの忘れ相談プログラム」及び全自動血圧計を設置し、患者が待ち時間を有効に過ごせるよう配慮した。

## イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、入院及び外来延患者数の減少による医業収益の減少等により、収益全体で1億7,900万円減少した。

一方、費用面では、後発医薬品の拡大等による経費削減や給与費の減などにより、費用全体で1億7,500万円減少した。

この結果、総損失は1億1,200万円となり、前年度から500万円増加した。

### 【足柄上病院 経営の状況】

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
収益計	6,700百万円	6,521百万円	179百万円
営業収益	6,530百万円	6,336百万円	194百万円
うち医業収益	5,027百万円	4,955百万円	72百万円
営業外収益	166百万円	184百万円	18百万円
臨時利益	3百万円	-	3百万円
費用計	6,808百万円	6,633百万円	175百万円
営業費用	6,638百万円	6,483百万円	155百万円
うち医業費用	6,504百万円	6,341百万円	163百万円
営業外費用	165百万円	148百万円	17百万円
臨時損失	4百万円	1百万円	3百万円
総損益	107百万円	112百万円	5百万円
経常損益	107百万円	110百万円	3百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)	
入 院	延患者数	75,815人	72,059人	3,756人
	実患者数	6,384人	6,243人	141人
	入院収益	3,554百万円	3,500百万円	54百万円
	1人当単価	46,889円	48,572円	1,683円
	病床利用率	78.7%	74.8%	3.9ポイント
外 来	平均在院日数	12.2日	11.5日	0.7日
	延患者数	148,753人	143,046人	5,707人
	外来収益	1,338百万円	1,324百万円	14百万円
	1人当単価	8,999円	9,257円	258円

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
経常収支比率	98.4%	98.3%	0.1ポイント
医業収益に対する給与費比率	76.1%	71.1%	5.0ポイント
医業収支比率	129.4%	128.0%	1.4ポイント

### (3) こども医療センター

全国でも類を見ない病院部門と福祉部門とが複合した三次医療機関として、また、総合周産期母子医療センターとして、他の医療機関では診療が困難な患者を、他施設からの紹介を基本として県内外から受け入れ、多職種が連携した専門性の高い包括医療を実施した。

また、本県で唯一の小児がん拠点病院として、小児がん治療の牽引役となって、小児がん診療の質の向上に取り組んでいくことが期待されるなど、依然として求められるニーズは高いものがある。

#### ア 医療の充実

##### 小児がん拠点病院（小項目5参照）

新規に59人の小児がん患者の入院を受け入れたほか、緩和ケア外来、外来化学療法室を開設するなど外来診療を充実させた。さらに、医療機関や患者・家族に対する相談支援、小児がんの治験等に取り組み、県内唯一の小児がん拠点病院としての役割を果たした。

##### 小児医療における緩和ケア（小項目7参照）

新規に専従の医師・看護師などからなる緩和ケア普及室を設置し、患者・家族を精神面で支える取組を実施したほか、患者がより安全にそして苦痛なく処置・検査を受けられるように、麻酔の提供といったアキュートペインサービスを実施した。

##### 周産期医療・小児三次救急（小項目8参照）

NICUでは病床数21床に対し1日平均20.7人の患者を受け入れ、常に満床に近い状態にある中、包括的な治療を要する重度の先天異常の患者も200人程度受け入れるなど、他の医療機関では治療が困難な患者を積極的に受け入れた。

さらに、新たに退院・在宅医療支援室を設置し、地域の医療機関との連携・調整の役割を担うなど、周産期救急の基幹病院としての役割を果たした。

##### 小児医療における治験（小項目28参照）

実施医療機関が限られている小児領域の治験について、希少疾病用医薬品や小児の抗がん剤の治験、国際共同治験を含めて24件受託した。

また、全国的にも極めて稀である小児に係る医師主導治験を2件実施した。

##### 地域医療連携の推進（小項目25参照）

地域医療支援病院として、地域医療連携登録の促進を図り、登録医療機関を386機関に拡大した。

また、地域医療機関の看護職員向け医療ケア実技研修会を実施することなどで、こども医療センターを退院した患者への対応が可能となる訪問看護ステーションの増加が図られた。

##### 患者相談体制の充実（小項目36参照）

新規に「新しい命のためのサポートセンター」を設置し、先天性の障がいや疾患に関する相談に応じ、相談者の自律的な意思決定を支援したほか、小児がん相談支援室も新たに設置し、在宅の小児がん患者に対する支援を強化した。

### 小児医療人材の育成（小項目43～45参照）

横浜市立大学との連携大学院協定に加え、新たに慶應義塾大学医学部・大学院医学研究科と協定を締結し、小児医療人材(医師)の育成体制の充実を図ったほか、神奈川県立保健福祉大学と小児看護・栄養分野の教育及び研究の連携を強化するための協定を締結した。

### NPO法人との協働（小項目42参照）

NPO法人から提供されたファシリテッドッグを活用し、治療の補助として用いる動物介在療法を実施したほか、病棟のプレイルーム等における患者・家族との触れ合いといった動物介在活動を実施した。

### 患者サービスの向上（小項目38参照）

バイキング形式による食事会、患者が収穫した野菜を利用した昼食、おやつ時間の「お好み焼き」作りなど、入院患者の栄養支援強化のための様々な工夫を行った。

## イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、患者数の増加やNICU運用の効率化等により医業収益は2,600万円増加したものの、運営費負担金収益の減により収益は総額で2億600万円減少した。

一方、費用面では、院外処方への推進による薬品費の減少などにより、費用全体で4億8,100万円減少した。

この結果、総利益は4億8,900万円となり、前年度から2億7,500万円増加した。

### 【こども医療センター 経営の状況】

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
収益計	15,353百万円	15,147百万円	206百万円
営業収益	15,166百万円	14,976百万円	190百万円
うち医業収益	11,283百万円	11,309百万円	26百万円
営業外収益	176百万円	170百万円	6百万円
臨時利益	9百万円	-	9百万円
費用計	15,139百万円	14,658百万円	481百万円
営業費用	14,856百万円	14,439百万円	417百万円
うち医業費用	14,520百万円	14,112百万円	408百万円
営業外費用	232百万円	211百万円	21百万円
臨時損失	49百万円	7百万円	42百万円
総損益	214百万円	489百万円	275百万円
経常損益	254百万円	496百万円	242百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)	
入 院	延患者数	99,195人	99,718人	523人
	実患者数	7,180人	7,257人	77人
	入院収益	7,712百万円	7,822百万円	110百万円
	1人当単価	77,754円	78,451円	697円
	病床利用率	82.6%	83.0%	0.4ポイント
	平均在院日数	14.3日	14.2日	0.1日
入 所	延患者数	27,754人	29,312人	1,558人
	実患者数	434人	365人	69人
	入所収益	878百万円	866百万円	12百万円
	1人当単価	31,668円	29,564円	2,104円
	病床利用率	84.5%	89.2%	4.7ポイント
	平均在院日数	77.5日	101.1日	23.6日
外 来	延患者数	158,372人	164,280人	5,908人
	外来収益	2,418百万円	2,348百万円	70百万円
1人当単価	15,270円	14,299円	971円	

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
経常収支比率	101.7%	103.4%	1.7ポイント
医業収益に対する給与費比率	72.4%	69.8%	2.7ポイント
医業収支比率	128.7%	124.8%	3.9ポイント

#### (4) 精神医療センター

##### < 芹香病院 >

精神科救急医療システムの基幹病院として精神科救急病床を県内で最多の16床設置し、救急患者の受入れにおいて積極的に役割を果たすとともに、統合失調症、気分障害、神経症性障害などのストレス関連疾患など、依存症を除く様々なこころの障害を対象とした医療を提供している。

#### ア 医療の充実

##### 精神科救急医療等（小項目9～11参照）

精神科救急医療システムの基幹病院として、平成24年度の実績とほぼ同数の137人の措置入院患者を受け入れるとともに、医療観察法の指定医療機関として、通院処遇の患者18人、入院処遇の患者39人を受け入れた。

また、うつ病・うつ状態の休職者や離職者の職場復帰を目的とした通所のリハビリテーションプログラム（復職支援プログラム）を実施し、患者の復職・再就職につなげた。

##### 精神医療センター総合整備（小項目24参照）

既存施設の老朽化や新たな精神科医療への対応及びせりがや病院との統合による効率的な病院運営を図るため、平成26年12月の新病院開院に向けて建設工事を進めた。

##### 患者サービスの向上（小項目38参照）

新棟整備により病院入口から外来までの動線が長くなったため、外来看護師の定期的なラウンドを病院入口まで広げて実施し、車からの乗り降りなどを補助した。

#### イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、医療観察法病棟運用の通年化に伴う入院収益の増加などにより、医業収益が2億2,600万円増加した。

一方、費用面では院外処方への推進による薬品費の減少などにより、費用全体で2億3,500万円減少した。

この結果、総利益は1億円となり、前年度から2億3,100万円増加した。

#### 【芹香病院 経営の状況】

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
収益計	3,953百万円	3,951百万円	2百万円
営業収益	3,930百万円	3,918百万円	12百万円
うち医業収益	2,031百万円	2,257百万円	226百万円
営業外収益	18百万円	32百万円	14百万円
臨時利益	4百万円	-	4百万円
費用計	4,085百万円	3,850百万円	235百万円
営業費用	4,038百万円	3,811百万円	227百万円
うち医業費用	3,935百万円	3,742百万円	193百万円
営業外費用	24百万円	38百万円	14百万円
臨時損失	22百万円	1百万円	21百万円
総損益	131百万円	100百万円	231百万円
経常損益	113百万円	101百万円	214百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)	
入 院	延患者数	70,681人	78,314人	7,633人
	実患者数	802人	781人	21人
	入院収益	1,446百万円	1,836百万円	390百万円
	1人当単価	20,460円	23,447円	2,987円
	病床利用率	62.9%	69.7%	6.8ポイント
外 来	平均在院日数	115.5日	132.5日	17.0日
	延患者数	36,748人	34,918人	1,830人
	外来収益	563百万円	404百万円	159百万円
	1人当単価	15,322円	11,590円	3,732円

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
経常収支比率	97.2%	102.6%	5.4ポイント
医業収益に対する給与費比率	139.3%	120.8%	18.5ポイント
医業収支比率	193.7%	165.8%	28.0ポイント

## <せりがや病院>

依存症・中毒性精神障害の専門病院として、アルコール・薬物依存症の患者に対して治療プログラムに基づく計画的な医療を提供している。

### ア 医療の充実

#### 治療プログラムの充実（小項目12参照）

断酒会等自助グループへの参加が身体的に困難な外来患者等に対する作業療法や、高齢化しているアルコール依存症の患者に対する心身の機能低下の防止を目的とした作業療法を導入するなど、入院治療プログラムの充実を図った。

また、覚せい剤の再乱用防止を図るため、医師、看護師、ケースワーカーがそれぞれの専門性を生かし、認知行動療法や動機付け面接法などを取り入れた包括的な集団治療プログラムである S M A R P P（Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program）による治療を実施した。

#### 患者サービスの向上（小項目38参照）

病院入口や外来カウンターに四季折々の飾りを施し、不安を抱えながら来院する患者の気持ちを少しでも癒せるような環境づくりを心がけた。

### イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、入院患者数の減少により入院収益が3,300万円減少したものの、外来収益が3,300万円増加したことにより、医業収益は、ほぼ同じ水準であった。

一方、費用面では、材料費の増加などはあったものの、給与費の減少などにより、費用全体で、1,300万円減少した。この結果、総損失は6,700万円となり、前年度から、6,200万円増加した。

#### 【せりがや病院 経営の状況】

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
収益計	855百万円	779百万円	76百万円
営業収益	845百万円	770百万円	75百万円
うち医業収益	464百万円	464百万円	0百万円
営業外収益	9百万円	8百万円	1百万円
臨時利益	0百万円	-	0百万円
費用計	860百万円	847百万円	13百万円
営業費用	849百万円	836百万円	13百万円
うち医業費用	838百万円	823百万円	15百万円
営業外費用	11百万円	9百万円	2百万円
臨時損失	0百万円	1百万円	1百万円
総損益	5百万円	67百万円	62百万円
経常損益	6百万円	66百万円	60百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)	
入 院	延患者数	16,279人	14,355人	1,924人
	実患者数	426人	355人	71人
	入院収益	287百万円	254百万円	33百万円
	1人当単価	17,673円	17,695円	22円
外 来	病床利用率	55.8%	49.2%	6.6ポイント
	平均在院日数	42.7日	45.9日	3.2日
	延患者数	16,068人	15,979人	89人
	外来収益	173百万円	207百万円	33百万円
1人当単価	10,818円	12,966円	2,148円	

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
経常収支比率	99.3%	92.2%	7.1ポイント
医業収益に対する給与費比率	125.9%	116.7%	9.2ポイント
医業収支比率	180.7%	177.4%	3.3ポイント

## (5) がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院として、手術、化学療法、放射線治療などがんに関する高度・専門医療を実施するとともに、平成25年11月にPFI手法で建設した新病院を開院し、機能を強化した。

また、重粒子治療施設は、平成27年12月の治療開始に向けて建屋建設及び装置製造を進めた。

### ア 医療の充実

#### 都道府県がん診療連携拠点病院の取組（小項目17参照）

都道府県がん診療連携拠点病院としてがん治療の均てん化を進めるため、がん臨床講座や緩和ケア研修など、県内の医療従事者を対象に研修等を開催するとともに、地域がん診療連携拠点病院による研修の連携や地域の医療機関も参加できる合同カンファレンスを実施した。

さらに、がん診療に関する専門医を育成することを目的としたがん専門医臨床研修（後期臨床研修）制度により、平成25年度は5名を採用し、専攻する診療科を中心として研修を実施した。

また、神奈川県がん診療連携協議会では、相談支援部会、がん登録部会、緩和ケア部会及び地域連携パス部会を運営した。

#### がんセンター総合整備の推進（小項目23参照）

新病院建設工事及びSPCとの運営協議や医療機器・備品の調達等について、計画を着実に進め、予定どおり平成25年11月に新病院での診療を開始した。

また、平成27年12月に予定している重粒子線治療の開始に向け、建設工事及び装置製造を進めるとともに、平成26年3月に県民を対象とした講演会を開催し、広報に取り組んだ。

#### 安全で安心な医療の提供（小項目30・31参照）

褥瘡対策チームによる定期的な回診の実施や、褥瘡の早期発見や予防対策の啓発に取り組むとともに、耐圧分散具内蔵の手術台を設置したことにより、手術領域における褥瘡の発生を防止するなど、褥瘡発生予防対策を推進した。また、医療安全対策について、入院患者における放射線検査時にもバーコード認証システムを導入するなど、患者誤認対策を強化した。

#### 患者の視点に立った病院運営（小項目36参照）

医療相談支援室等で、患者や家族等に対して経済的問題や家庭環境に係る医療福祉相談など、幅広い相談に応じた。また、新たに化学療法患者を対象とした栄養・料理セミナーを実施したほか、管理栄養士による個別・集団栄養指導や栄養サポート外来、さらにNST（栄養サポートチーム）による栄養管理向上への取組など、患者の状況に合わせた適切な栄養療法による生活の質の向上を図った。

#### 患者サービスの向上（小項目40・42参照）

新病院の開院に伴い、患者支援センターを設置し、受付・検査予約や会計、相談などの窓口の一元化を図るワンストップサービスを開始した。また、外来受診の際に患者が院内を自由に移動できる呼出カードを用いたシステムの導入により、待ち時間の負担軽減を図るとともに、クレジットカードが取扱可能な自動精算機を1台から3台

に増設するなど、患者の利便性の向上を推進した。

## イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、外来患者数が大幅に増加するとともに、患者単価の上昇により、収益全体で7億6,900万円増加した。

一方、費用面では、P F I事業者への委託料の増加や移転経費等により、費用全体で39億7,100万円増加した。

この結果、総損失は22億5,900万円となり、前年度から32億100万円利益が減少した。

### 【がんセンター 経営の状況】

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
収益計	14,059百万円	14,828百万円	769百万円
営業収益	13,969百万円	14,513百万円	544百万円
うち医業収益	11,568百万円	12,156百万円	588百万円
営業外収益	84百万円	250百万円	166百万円
臨時利益	6百万円	64百万円	58百万円
費用計	13,117百万円	17,088百万円	3,971百万円
営業費用	12,944百万円	14,290百万円	1,346百万円
うち医業費用	12,624百万円	13,855百万円	1,231百万円
営業外費用	81百万円	254百万円	173百万円
臨時損失	91百万円	2,542百万円	2,451百万円
総損益	942百万円	2,259百万円	3,201百万円
経常損益	1,027百万円	218百万円	809百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)	
入 院	延患者数	117,773人	116,567人	1,206人
	実患者数	8,703人	8,749人	46人
	入院収益	7,384百万円	7,558百万円	174百万円
	1人当単価	62,703円	64,844円	2,141円
	病床利用率	77.8%	77.0%	0.8ポイント
外 来	平均在院日数	14.0日	13.4日	0.6日
	延患者数	177,312人	184,311人	6,999人
	外来収益	3,877百万円	4,208百万円	331百万円
	1人当単価	21,868円	22,834円	966円

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
経常収支比率	107.9%	101.5%	6.4ポイント
医業収益に対する給与費比率	52.2%	48.2%	4.1ポイント
医業収支比率	109.1%	114.0%	4.9ポイント

## (6) 循環器呼吸器病センター

狭心症、心筋梗塞や不整脈等の循環器疾患、肺がんや間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器疾患について、専門医療機関として、質の高い総合的な医療を提供している。

また、多剤耐性結核対策等の結核医療を継続的に実施し、社会的使命を果たしている。

### ア 医療の充実

#### 総合的な循環器医療の推進（小項目18参照）

患者の高齢化に対応するため、不整脈治療や糖尿病診療、心臓リハビリテーションの取組を強化した。

また、多職種による心臓リハビリテーションチームにおいて、心筋梗塞の患者向け冊子を作成し、疾患の再発予防と患者の社会復帰に努めた。心臓手術についても、高齢者の難易度の高い弁膜症手術に安定した実績をあげるとともに、小切開による僧帽弁置換術の導入等、低侵襲治療の取組を推進した。

#### 肺がん治療等の強化（小項目19参照）

平成25年7月に「肺がん包括診療センター」を開設し、多職種による包括的肺がん医療の提供を開始した。

また、間質性肺炎の患者と家族を支援するため、全国で2回目となる患者、家族及び医療関係者等を対象とした「間質性肺炎・肺線維症勉強会」を横浜市内で開催した。

#### 結核対策（小項目20参照）

高齢の結核患者が増加する中、長期の入院や服薬の必要性を理解するための勉強会の開催や、ボランティアの協力による入院のストレス緩和のための取組を進めるとともに、退院後も治療が確実に実施されるよう、保健所保健師等と連携した地域ぐるみでの支援を行った。

#### 地域医療連携の強化（小項目25・36参照）

地域医療機関に対し、高度医療機器の共同利用の働きかけを積極的に行うとともに、地域連携室の看護師、ソーシャルワーカーが連携を深めることにより、逆紹介の推進や医療相談及び福祉相談の充実を図った。

また、「肺がん包括診療センター」及び「気胸センター」の開設を周知するため、医療機関訪問や講演会、地域の医師会等と協力した症例検討会を開催した。

#### 患者サービスの向上（小項目38参照）

施設の老朽化対応として、病棟のカーペット床の張替え、浴室・トイレのリフォーム、待合ホールの照明LED化等の工事を実施するとともに、案内表示板、駐車場精算機等を更新した。

また、インフルエンザ警報発令期間中、来院者にマスクを配布し、院内感染防止の徹底を図った。

## イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、外来患者の増加やリニアックの通年稼働等により、収益全体で、3,000万円増加した。

一方、費用面では、給与費や材料費が減少したものの、委託料や光熱水費等が増加し費用全体で5,000万円増した。

この結果、総利益は1億7,500万円となり、前年度から2,000万円減少した。

### 【循環器呼吸器病センター 経営の状況】

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
収益計	6,769百万円	6,799百万円	30百万円
営業収益	6,649百万円	6,597百万円	52百万円
うち医業収益	5,243百万円	5,280百万円	37百万円
営業外収益	116百万円	201百万円	85百万円
臨時利益	3百万円	-	3百万円
費用計	6,574百万円	6,624百万円	50百万円
営業費用	6,412百万円	6,497百万円	85百万円
うち医業費用	6,259百万円	6,343百万円	84百万円
営業外費用	135百万円	121百万円	14百万円
臨時損失	26百万円	5百万円	21百万円
総損益	195百万円	175百万円	20百万円
経常損益	218百万円	180百万円	38百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)	
入 院	延患者数	63,014人	64,185人	1,171人
	実患者数	4,462人	4,524人	62
	入院収益	3,488百万円	3,372百万円	116百万円
	1人当単価	55,367円	52,542円	2,825円
	病床利用率	72.2%	73.6%	1.4ポイント
外 来	平均在院日数	14.6 日	14.6 日	0.0 日
	延患者数	89,767人	92,198人	2,431人
	外来収益	1,576百万円	1,721百万円	145百万円
	1人当単価	17,560円	18,672円	1,112円

区 分	平成24年度	平成25年度	差引(25-24)
経常収支比率	103.3%	102.7%	0.6ポイント
医業収益に対する給与費比率	55.1%	52.6%	2.5ポイント
医業収支比率	119.4%	120.1%	0.8ポイント

#### 4 小項目別の業務実績

### 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

#### 1 質の高い医療の提供

##### (1) 医療機能の充実

##### ア 足柄上病院

地域の中核的医療機関としての取組（小項目1）

- ・高齢者の増加に対応するため在宅での療養生活を医療面から支援する訪問診療の実施に向けた取組や、患者の入院時から退院後までの生活を見据えて支援する入退院支援センターの設置に向けて準備を進めた。
- ・内視鏡室の整備拡充（平成25年1月）により、平成25年度は内視鏡検査件数が目標値3,900件に対して4,017件（117件増）、治療件数が目標値850件に対して908件（58件増）と増加した。

[内視鏡検査・治療件数の実績と目標値]

区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度	
			目標値	実績
検査件数	3,234件	3,608件	3,900件	4,017件
治療件数	605件	751件	850件	908件

- ・平成25年度は鏡視下手術の件数が目標値150件に対して225件（75件増）と増加した。

[鏡視下手術件数の実績と目標値]

平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度	
		目標値	実績
134件	155件	150件	225件

高齢者総合医療の推進（小項目2）

- ・スマイル病棟など全病棟で高齢者患者に対して入院時から生活機能の向上を目指して歩行・移動等10項目のパーセルインデックスを活用し、カンファレンス・個別の計画を実施した。その結果、歩行や移動動作などの項目が入院時と比べ退院時には上回った。
- ・入院時から地域医療連携室が関わり、地域医療機関や家族と連絡をとり、共同指導や家族指導等を通じて退院支援を行っている。
- ・摂食・嚥下診療計画書及び実施計画書、さらに看護援助のアセスメント表をより実践内容が反映できるよう見直したことにより、口腔ケアの実施等摂食機能療法の件数が増加し、摂食・嚥下機能の向上に繋がった。

[摂食機能療法件数の実績と目標値]

平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度	
		目標値	実績
1,104件	2,785件	2,900件	6,478件

救急医療の取組（小項目3）

- ・HCUに延754人の患者を受け入れ、重症患者の集中治療を行った。
- ・小田原市消防本部の要請に基づき、救急隊救急救命士の再教育研修等を受け入れたほか、秦野市消防本部など近隣消防救急隊との研修会を実施するなど連携強化に努めた。

[ 年間救急受入の実績と目標値 ]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
救急依頼件数	-	-	-	12,439件	-	12,281件	-	11,329件
うち救急受入件数	11,900件	11,872件	12,000件	11,808件	12,000件	11,744件	12,000件	10,841件
うち救急車受入件数	-	-	-	2,556件	-	2,705件	2,600件	2,967件
うち入院患者数	-	-	-	2,360人	-	2,619人	-	-

救急依頼件数と救急受入件数の差分は受入できなかった件数  
平成25年度488件（平成24年度537件）

#### 産科医療体制の充実（小項目4）

産婦人科医師の負担軽減を図るため、院内助産システムにより助産師主導の分べんを実施するとともに、引き続き産婦人科医師の必要数の確保に向けて取り組んだ。

また、助産師は週3回助産師外来で妊婦健診や保健指導を行うとともに、週1回の母乳育児外来で育児相談等の業務を行うなど、妊婦・分娩・育児に必要な知識や情報を提供し、妊産婦との信頼関係を築くよう心がけた。

さらに、退院後も母乳育児を行っている親子をサポートするための集いを定期的に年2回開催した。

[ 分べん件数（助産師分べん件数）の実績と目標値 ]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
分べん件数	250件	253件	250件	171件	180件	178件	240件	185件
うち助産師分べん件数	40件	73件	150件	154件	180件	155件	200件	147件

## イ こども医療センター

#### 小児がん拠点病院（小項目5）

・全国で小児がんの新規発症患者数が年間2,000人から2,500人と言われる中、59人の小児がん患者を新規に入院で受け入れた。また、平成25年11月に緩和ケア外来室、平成26年3月に外来化学療法室を開設したほか、平成26年2月に小児がん経験者内分泌外来を実施するなど、在宅の小児がん患者の増加に対応し、外来診療をより充実させることで患者の「生活の質」の向上を図った。

緩和ケア外来件数 56件

外来化学療法件数 4件

その他、栄養支援の強化を図るため、化学療法や放射線治療などで食欲低下や粘膜障害を起こしやすい小児がん患者とその家族を対象に新たに小児がん栄養サロンを3回開催し、20人が参加した。

・平成25年4月に小児がん相談支援室及び退院・在宅医療支援室を設置し、医療・教育機関や患者・家族への相談支援、セミナー実施などに取り組んだ。

相談対応件数 827件

小児がん相談支援室セミナー

1回開催 59人参加

小児がん支援者研修

1回開催 14人参加

- ・小児の抗がん剤の治験については、新規1件を含む2件を受託しており、小児がん患者の治療に貢献している。

#### 手術体制の充実（小項目6）

- ・前年度の課題であった循環器内科の医師の欠員は解消し、手術件数は前年度比102件増の3,670件となり、目標値3,800件に対し96.6%の達成率となった。

また、新生児手術件数も154件となり、目標値の150件を上回った。

一方で、心臓血管外科手術件数は2歳までに平均3回の手術を要する単心室症例の患者が減少傾向にあることなどで、目標値350件に対し、329件に留まった。

また、乳児外科施設基準対象手術件数も、対象に心臓血管外科手術関係が多いことから、同様の理由で、目標値110件に対し、64件に留まった。

- ・内視鏡手術に積極的に取り組み、目標値120件に対し、139件を実施した。

[手術件数の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
手術件数	3,770件	3,684件	3,800件	3,584件	3,800件	3,568件	3,800件	3,670件
うち心臓血管外科手術	-	376件	-	404件	400件	332件	350件	329件
うち新生児手術件数	135件	229件	130件	143件	160件	128件	150件	154件
うち乳児外科施設基準対象手術件数	-	86件	40件	112件	105件	77件	110件	64件
うち内視鏡手術件数	-	-	-	105件	-	120件	120件	139件

#### 小児医療における緩和ケアの取組（小項目7）

- ・平成25年4月に専従の医師、専従の看護師、薬剤師、臨床心理士、保健師及び医療ソーシャルワーカーからなる「緩和ケア普及室」を設置し、8月から緩和ケア診療加算、外来緩和ケア管理料の算定が可能となった。さらに、緩和ケアチームにファシリテッドッグ及びそのハンドラーを加えることで、その体制の強化を図った。

- ・緩和ケア外来を30件の目標に対し、56件を実施し、また、平成25年11月に緩和ケア外来室を開設し、体制の充実を図り、地域に暮らす小児患者とその家族の生活の質の向上を図った。

- ・地域の医療機関等を対象に小児緩和ケアセミナー、学術集談会などセミナーを5回開催し、小児緩和医療の普及啓発を図った。

- ・静脈麻酔、全身麻酔を手術室内外で提供するといったアキュートペインサービスを実施し、疼痛を伴う処置及び検査に対する不安並びに手術後も含めた疼痛の緩和を図った。

また、主に病院職員を対象とするアキュートペインサービスに関するセミナーを3回開催し、その普及・啓発を図った。

- ・周産期総合医療施設の特性を活かし、従来から提供されてきた周産期緩和ケア、グリーフケアのさらなる普及と推進を図ることを目的に、周産期緩和ケアワーキンググループを立ち上げた。

[ 緩和ケアに関する取組の実績と目標値 ]

区分	平成24年度 実績	平成25年度	
		目標値	実績
緩和ケア外来患者数	-	30人	56人
アキュートペインサービス			
侵襲の強い処置に対する全身 麻酔提供	12件	25件	24件
PCAポンプを用いた症状緩和	17件	20件	19件
手術後の疼痛緩和	139件	150件	130件

周産期救急医療・三次救急医療の取組（小項目8）

・全国的なNICU不足の中、NICU病床21床に対し、1日平均20.7人を受け入れており、常時満床に近い状態にある。

また、包括的な医療を要する重度の先天異常の患者も毎年200人前後受け入れている。

こうした中、NICUの受入実患者数は、新生児病棟における適切な病床管理の取組などの効果で、目標値の600人に対し、601人となったほか、NICUの計画的運用を図ったことにより、算定期間に上限のある新生児集中治療室管理料算定患者数が1日あたり17.7人と、平成23年度の14.9人、前年度の15.4人から改善した。

・新たに設けた退院・在宅医療支援室に退院調整専従の看護師を配置し、地域医療機関との連携・調整の役割を担った。

・NICUから他医療機関への転院時に医師が同乗する搬送（戻り搬送）件数は、NICUの計画的運用を図っていることなどで52人に留まった。

・救急受入件数は、全体で平成24年度対比173件増の5,071件に達し、三次救急医療機関としての役割を果たしている。

[周産期救急の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
NICU受入実患者数	600人	543人	600人	581人	600人	653人	600人	601人
超低出生体重児入院件数	-	56件	55件	42件	55件	33件	55件	45件
依頼医療機関から斡旋医療 機関への新生児搬送件数	-	23件	25件	17件	25件	25件	25件	25件
NICUから他医療機関へ の転院（戻り搬送）患者数	-	88人	100人	78人	100人	93人	100人	52人
救急受入件数	-	5,112件	-	5,214件	-	4,898件	-	5,071件
うち入院患者数	-	1,385人	-	1,394人	-	1,457人	-	1,416人

ウ 精神医療センター 芹香病院・せりがや病院

< 芹香病院 >

精神科救急医療の取組（小項目9）

・神奈川県精神保健福祉センター及び4県市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）により構築された精神科救急医療システムにおいて、休日・夜間・深夜の受入を行う「精神科24時間救急の病床」を確保する基幹病院は7病院あり、芹香病院は最多の16床を確保するとともに、精神科救急医療調整会議などを通して密接な連携を図っている。

・院内でベッドコントロールを実施することにより受入体制を整え、措置入院患者137件、急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者37件、全体で174件の患者

を受入れた。

[精神科救急件数の実績と目標値]

区 分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
措置入院患者	100件	109件	100件	108件	100件	138件	100件	137件
急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者	50件	43件	50件	46件	50件	46件	50件	37件

#### ストレスケア医療の取組（小項目10）

・反復性経頭蓋磁気刺激法 の開発については、平成25年度は10人（平成24年度以前との合計92人）の患者の協力を得て、気分障害への効果及び安全性について検証するため、実証実験を行うなど先進医療の認定に向けて研究を進めた。

##### 反復性経頭蓋磁気刺激法（rTMS）

8の字型のコイルに電流を流すと周囲に磁界が発生し、その作用で脳の一定の部位に微弱な電流が生じる。それにより脳の神経細胞を刺激して機能を調整する。

・高度医療については、修正型電気けいれん療法について135件実施したほか、クロザピン運営委員会を設置し、治療を開始した。

・うつ病、うつ状態による休職者や離職者の職場復帰を目的とした通所によるリハビリテーションプログラム（復職支援プログラム）については、毎年、1グループ定員12人程度、4ヶ月間を1クールとして、年4回の受入れを行っている。

平成25年度については、他の医療機関においてもプログラムが始まった影響などにより、年4回の受入れのうち1回が実施できなかったため、延患者数が874件となった。このため、これまでの休職者を中心とした受入基準を見直し、離職者やせりがや病院からの患者受入拡大に取り組んだ。

プログラム実施を転機として離職者も含めたプログラム修了者12人中7人が復職又は就職することができた。

[リワークプログラム実施延べ患者数の実績]

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
			目標値	実績
1,559人	1,321人	1,245人	1,330人	874人

・クリニック等を訪問し、ストレスケア病棟の紹介を行うとともに、うつ病についての講演会やストレスケア病棟の見学会を2回実施した。

・うつ病予防のための県民向けの公開講座を次のとおり実施した。

期 日 平成26年1月25日（土）

テーマ 「職場結合性うつ病-病態と予防」

「非定型うつ病の理解と対処」

受講者 195人

・思春期を対象とした精神科医療の実施に向け、提供する医療内容や運営体制について検討を進めた。

#### 医療観察法病棟の整備（小項目11）

・指定通院医療機関として、多職種チーム（医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理

士、作業療法士等)を3チーム編成して、関東信越厚生局の要請に応じ、837人の通院患者を受け入れ、患者の症状に対応した個別治療計画を策定し、手厚い医療を積極的に実施した。

・医療観察法に基づく医療提供を円滑に実施するため、かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議(年4回)を主宰し、県内の指定医療機関や保護観察所及び社会福祉施設等との連携を図った。

[医療観察法指定通院医療の延べ患者数の実績と目標値]

平成22年度 実績	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
1,126人	768人	1,315人	1,056人	1,054人	1,090人	837人

・平成24年11月に開棟した専門病棟(33床)については、関東信越厚生局の要請に応じて計画的に入院患者を受け入れ、ほぼ満床となった。また、専門治療プログラムの提供や退院準備室等を利用した外出、外泊を実施し、地域関係機関との連携により、退院に結びつけた。

・医療観察法に基づく医療の質の向上及び均てん化を図るため、芹香病院の多職種チームの職員3名が指定医療機関を訪問するとともに、他の指定医療機関からも3名の職員を受け入れ、医療体制等に係る評価や課題への助言等の技術交流を行った。

#### <せりがや病院>

アルコール・薬物による依存症医療の取組等(小項目12)

・アルコールや覚醒剤等の薬物による依存症を対象として、ミーティング等を取り入れた治療プログラムや家族教室を実施したほか、受診の前日に電話連絡するなどきめ細やかな患者対応に努め、外来患者の受入れに取り組んだ。

また、緊急時の対応について医師と協議し、受診が必要と考えられる患者に対し初診枠を超えても受診できるようにするとともに、依存症医療における地域との連携・協力を進めて新患患者の増加に努め、518件の新患患者を受け入れた。

アルコール家族教室 年間21回  
第1・第3木曜日  
薬物家族教室 年間24回  
第2・第4木曜日

[新患患者数の実績と目標値]

平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度	
		目標値	実績
507人	559人	510人	518人

・S M A R P Pの内容を充実させるため、依存物質(処方薬、覚醒剤等)によりグループを細分化したほか、女性に限定したグループを立ち上げた。また、これらのグループに適応できない患者に対しては個別にS M A R P Pを実施した。この結果、患者数が増加した。

[SMARPP実施患者数の実績と目標値]

平成22年度 実績	平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度	
			目標値	実績
実患者数100人 (延700人)	実患者数97人 (延790人)	実患者数138人 (延1,110人)	実患者数100人 (延800人)	実患者数157人 (延1,265人)

・県と連携して、県内の中学校、高校等で開催される薬物乱用防止教室に職員を派遣し、啓発活動を行った（実績 延34施設8,036人）。社会的問題となっている「脱法ハーブ」関連の依頼も多く、実情について講演し、専門病院としての臨床経験を踏まえた啓発活動を行った。

## エ がんセンター

手術実施体制の充実の取組（小項目13）

移転により、手術室が6室から全12室となったことから、手術室の効率的な運用が可能となり、目標値を上回る実績となった。

[手術件数の実績と目標値]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
2,700件	2,565件	2,700件	2,564件	2,700件	2,738件	2,610件	2,685件

がん対策の推進 外来化学療法（小項目14）

・平成25年度の外来化学療法件数は11,747件となり、前年度実績より増加となったものの、治療が長時間にわたる患者の増加などにより、目標には達しなかった。

[外来化学療法件数の実績と目標値]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
12,580件	11,746件	11,600件	11,785件	11,700件	11,624件	12,570件	11,747件

・患者が抱えている不安や疑問に対応し、治療を安心して受けられるよう、薬剤師による服薬や処方の説明に努めた結果、平成25年度の目標数1,680件に対し、実績は1,885件と103件増加した。

[外来薬剤指導件数の実績と目標値]

平成23年度実績	平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績
1,586件	1,500件	1,782件	1,680件	1,885件

・これまで実施している漢方外来の機能充実を図る「漢方サポートセンター」の設置に向けた協議を進めた。

がん対策の推進 放射線治療（小項目15）

・移転に合わせて放射線治療装置（リニアック）を2台から4台に増設し、計画的で効率的な治療を行ったことから、平成25年度の放射線治療の実患者数は816人となり、目標の650人に対し126%の達成率となった。

[照射方法別治療実患者数の実績と目標値]

照射方法	平成23年度実績	平成24年度		平成25年度	
		目標値	実績	目標値	実績
通常照射	408人	600人 30回	769人 30回	610人 30回	745人 30回
IMRT(強度変調)	2人	25人 37回	15人 37回	12人 37回	26人 37回
定位照射	2人	24人 4回	13人 4回	14人 4回	15人 4回
全身照射	21人	20人 1回	20人 1回	14人 1~3回	30人 1回

- ・重粒子線治療施設については、平成27年12月の治療開始に向けて、建屋の建設及び装置の製造を引き続き行った。

【重粒子線治療施設概要】

建築面積	3,009.12㎡
延床面積	6,999.47㎡
階数	地上2階、地下1階建
構造	鉄筋コンクリート造
治療室数	4治療室 6治療ポート

- ・先行して重粒子線治療を行う施設である放射線医学総合研究所に、放射線腫瘍科医師を研修派遣し、人材育成に取り組んだ。
- ・重粒子線治療について広く知ってもらうため、平成26年3月に県民を対象とした公開講座を開催した。

日時：平成26年3月1日

場所：関内ホール

参加人数：208名

緩和ケアの取組（小項目16）

- ・移転により、緩和ケア病棟の病床数を14床から20床に拡充し、がんと診断されたときから症状の段階に応じたケアの実施や療養環境の充実に努めた。

緩和ケア病棟入院延患者数：5,260人

- ・緩和病棟において、医師、看護師、薬剤師で構成し緩和ケアチームが中心となり、がんによって生じた身体的・精神的苦痛、社会的困難などに迅速かつ適切に対応した。
- ・都道府県がん診療拠点病院として地域の医療機関等との連携協力体制を強化するため、「緩和ケアセンター」の整備に向けた検討を進めた。

都道府県がん診療連携拠点病院の取組（小項目17）

- ・がん専門臨床研修医を新たに5人を採用し、各種研究会・学会報告、論文作成や、各領域ごとに自己評価と指導医評価を行うなど、がん診療に関する専門医の育成を推進した。

- ・都道府県がん診療連携拠点病院として、がん治療の均てん化を進めるため、がん臨床講座や緩和ケア研修など、県内のがん医療に携わる医師・薬剤師・看護師等を対象とした研修等を開催した。

また、地域がん診療連携拠点病院との研修の連携や、地域の医療機関も参加できる合同カンファレンスを実施した。

[がん専門研修の実績と目標値]

区分	平成22年度目標値		平成22年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	33回	648人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	55人
区分	平成23年度目標値		平成23年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	31回	626人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	67人
区分	平成24年度目標値		平成24年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	31回	560人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	42人
区分	平成25年度目標値		平成25年度実績	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	30回	600人	31回	436人
緩和ケア研修	2回	50人	2回	40人

(注) 緩和ケア研修は2回で1コース

・日本病院会のQ Iプロジェクト及びC Q I研究会に参加し、診療指標の測定・公表及び分析を行うなど、医療の質の向上や均てん化を進めた。

## オ 循環器呼吸器病センター

循環器疾患治療体制の充実(小項目18)

- ・高齢化による循環器の慢性疾患患者の増加に対応するため、不整脈治療や心臓リハビリテーションに力を注いだ。また、心臓リハビリテーションでは、心筋梗塞の患者向けパンフレットを多職種のチームで作成し治療に活用するなど、疾患の再発予防と患者の社会復帰に努めた。
- ・生活習慣病に起因する循環器疾患を予防するため、常勤の糖尿病診療医師を配置し、診療体制の充実を図った。
- ・心臓手術については、手術待機患者の減少等により目標件数を下回ったものの、高齢者の難易度の高い弁膜症手術に安定した実績を収めたほか、M I C S M V R (小切開による僧帽弁置換術)の導入やステントグラフト内挿術の取組みなど、心臓血管疾患に対する治療の充実に努めた。

[ P C I 症例数の実績と目標値 ]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
355件	279件	300件	265件	260件	281件	260件	262件

[ カテーテルブレーション症例数の実績と目標値 ]

平成22年度実績	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
65件	80件	87件	100件	93件	50件	52件

[ 心臓手術の実績と目標値 ]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
31件	78件	80件	83件	84件	78件	85件	62件

[ 心臓リハビリテーションの実績と目標値 ]

平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度	
		目標値	実績
2,208件	2,302件	2,500件	2,523件

肺がん治療の強化（小項目19）

- ・平成25年7月に、各診療科、病理検査、放射線、薬剤、看護等の関連部門による「肺がん包括診療センター」を開設し、組織的なチームによる包括的医療の提供を開始した。このうち化学療法については、通院外来治療への対応を進めたことから、外来治療で前年度を大幅に上回る実績となった。
- ・間質性肺炎の患者会の設立に向け、平成25年7月に全国で2回目となる患者、家族及び医療関係者等を対象とした「間質性肺炎・肺線維症勉強会」を開催し、治療や生活上での注意点などの情報交換を通じて患者への支援を行った。

[ 肺がん手術件数の実績と目標値 ]

区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度	
			目標値	実績
肺がん手術件数	113件	129件	120件	136件
うち胸腔鏡下手術件数	100件	122件	105件	127件

[ 化学療法件数の実績と目標値 ]

区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度	
			目標値	実績
入院治療	695件	619件	650件	597件
外来治療	494件	491件	550件	683件

[ 放射線治療件数の実績と目標値 ]

平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度		平成25年度	
		目標値	実績	目標値	実績
130件	51件	80件	77件	180件	147件

治療計画作成件数

[ 間質性肺炎の新規の外来患者数の実績と目標値 ]

平成22年度実績	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
192人	130人	176人	180人	218人	220人	259人

- ・間質性肺炎、肺がん、COPDなどの症状に応じた呼吸器リハビリテーションを積極的に取り入れ、患者の生活の質の向上や早期退院を図った。

(参考) [ 呼吸器リハビリテーションの実績 ]

平成24年度	平成25年度
4,036件	4,619件

結核医療の取組（小項目20）

- ・結核入院患者全員に院内DOTSを実施するとともに、退院患者についても、医師、看護師、ソーシャルワーカー及び保健所の保健師等の多職種による連絡会議を定期的で開催し、退院後も確実な治療が行われるよう地域ぐるみでの支援を行った。
- ・患者が病気の内容や、長期の入院、服薬の必要性を理解するよう集団での勉強会を開催したり、隔離された入院生活からのストレスを緩和するためのボランティアによるコンサート、病棟の飾り付けなどの取組を行った。

(参考) [結核病棟延入院患者数の推移] (下段は1日当たり)

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
14,136人	13,478人	12,715人	12,870人
(38.7人)	(36.8人)	(34.8人)	(35.3人)

(参考) [多剤耐性結核患者の推移]

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
2人	2人	0人	1人

## カ 医療機能を評価する指標の設定 (小項目21)

- 1 患者満足度把握 (患者満足度調査)
- 2 地域連携室等の相談件数
- 3 クリティカルパスの設定数
- 4 退院サマリーの2週間以内完成率
- 5 ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生・報告状況
- 6 褥瘡患者発生率
- 7 新卒看護師離職率
- 8 専門・認定看護師数

### 【病院機構の共通指標 8指標】

- 1 患者満足度の把握 (患者満足度調査)

[満足度調査結果]

平成22年度	入院		外来	
	回答総数	満足度	回答総数	満足度
足柄上病院	125人	95.6%	450人	51.0%
こども医療センター	216人	79.0%	1,180人	53.3%
芹香病院	136人	65.5%	272人	62.0%
せりがや病院	44人	66.5%	-	-
がんセンター	285人	91.5%	787人	83.1%
循環器呼吸器病センター	136人	88.2%	215人	85.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

平成23年度	入院			外来		
	満足評価	回答総数	満足度	満足評価	回答総数	満足度
足柄上病院	95人	99人	96.0%	171人	221人	77.4%
こども医療センター	129人	160人	80.6%	1,012人	1,298人	78.0%
芹香病院	79人	125人	63.2%	156人	301人	51.8%
せりがや病院	31人	43人	72.1%	131人	165人	79.4%
がんセンター	261人	295人	88.5%	630人	765人	82.4%
循環器呼吸器病センター	183人	210人	87.1%	365人	412人	88.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

平成24年度	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	93人	98人	94.9%	200	217人	258人	84.1%	390
こども医療センター	135人	158人	85.4%	313	723人	972人	74.4%	2,000
芹香病院	69人	111人	62.2%	127	171人	345人	49.6%	345
せりがや病院	33人	43人	76.7%	52	98人	105人	93.3%	112
がんセンター	284人	311人	91.3%	378	574人	704人	81.5%	843
循環器呼吸器病センター	163人	185人	88.1%	400	342人	397人	86.1%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

平成25年度	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	73人	78人	93.6%	200	187人	226人	82.7%	400
こども医療センター	178人	193人	92.2%	352	723人	913人	79.2%	1,717
芹香病院	82人	121人	67.8%	158	138人	280人	49.3%	280
せりがや病院	30人	35人	85.7%	39	123人	139人	88.5%	159
がんセンター	313人	332人	94.3%	344	720人	789人	91.3%	876
循環器呼吸器病センター	161人	178人	90.4%	300	362人	405人	89.4%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

## 2 地域連携室等の相談件数

[相談件数実績(地域医療連携室等への診療相談)]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	11,473件	11,264件	11,439件	10,793件
こども医療センター	24,130件	21,933件	27,137件	15,751件
芹香病院	4,593件	4,679件	4,817件	4,208件
せりがや病院	270件	391件	498件	453件
がんセンター	9,825件	9,354件	8,352件	10,874件
循環器呼吸器病センター	8,284件	11,416件	14,497件	13,786件
計	58,575件	59,037件	66,740件	55,865件

## 3 クリティカルパスの設定数

[クリティカルパスの件数実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度			
				新規	改定(見直し)	廃止	件数
足柄上病院	66件	70件	71件	5件	11件	3件	73件
こども医療センター	28件	29件	89件	5件	4件	6件	88件
芹香病院	3件	3件	3件	1件	0件	0件	4件
せりがや病院	2件	3件	4件	1件	2件	0件	5件
がんセンター	50件	32件	37件	10件	13件	0件	47件
循環器呼吸器病センター	18件	20件	21件	3件	7件	3件	21件
計	167件	157件	225件	25件	37件	12件	238件

## 4 退院サマリーの2週間以内完成率

[退院サマリー2週間以内完成率]

区分	平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	分子	分母	測定値	分子	分母	測定値	分子	分母	測定値
	担当医が退院後2週間以内にサマリーを完成した数	退院患者数	2週間以内完成率	担当医が退院後2週間以内にサマリーを完成した数	退院患者数	2週間以内完成率	担当医が退院後2週間以内にサマリーを完成した数	退院患者数	2週間以内完成率
足柄上病院	5,100件	6,046人	84.4%	5,178件	6,211人	83.4%	5,197件	6,244人	83.2%
こども医療センター	5,783件	6,879人	84.1%	5,323件	7,297人	72.9%	5,671件	7,316人	77.5%
芹香病院	604件	607人	99.5%	609件	612人	99.5%	572件	577人	99.1%
せりがや病院	261件	340人	76.8%	310件	381人	81.4%	163件	320人	50.9%
がんセンター	7,126件	7,647人	93.2%	7,297件	8,449人	86.4%	7,671件	8,693人	88.2%
循環器呼吸器病センター	3,945件	4,226人	93.4%	3,984件	4,334人	91.9%	3,941件	4,346人	90.7%

## 5 ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生・報告状況

[ヒヤリ・ハット事例、医療事故の報告・報告件数実績]

平成23年度	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				合計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	276件	1,158件	311件	25件	1,770件	4件	0件	0件	4件	1,774件
こども医療センター	295件	1,898件	88件	25件	2,306件	7件	0件	0件	7件	2,313件
芹香病院	53件	261件	65件	17件	396件	4件	0件	0件	4件	400件
せりがや病院	35件	107件	19件	3件	164件	0件	0件	0件	0件	164件
がんセンター	292件	1,369件	79件	14件	1,754件	4件	0件	0件	4件	1,758件
循環器呼吸器病センター	199件	818件	248件	16件	1,281件	3件	0件	0件	3件	1,284件
計	1,150件	5,611件	810件	100件	7,671件	22件	0件	0件	22件	7,693件

平成24年度	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				合計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	315件	1,312件	214件	37件	1,878件	2件	0件	0件	2件	1,880件
こども医療センター	278件	1,690件	123件	60件	2,151件	3件	0件	0件	3件	2,154件
芹香病院	97件	429件	61件	13件	600件	2件	0件	0件	2件	602件
せりがや病院	29件	102件	19件	2件	152件	0件	0件	0件	0件	152件
がんセンター	272件	1,546件	86件	17件	1,921件	2件	0件	0件	2件	1,923件
循環器呼吸器病センター	137件	820件	257件	30件	1,244件	3件	0件	0件	3件	1,247件
計	1,128件	5,899件	760件	159件	7,946件	12件	0件	0件	12件	7,958件

平成25年度	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				合計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	180件	1,077件	228件	48件	1,533件	6件	0件	0件	6件	1,539件
こども医療センター	333件	1,988件	107件	56件	2,484件	3件	0件	0件	3件	2,487件
芹香病院	84件	361件	72件	14件	531件	1件	0件	0件	1件	532件
せりがや病院	40件	125件	25件	2件	192件	0件	0件	0件	0件	192件
がんセンター	333件	1,700件	103件	28件	2,164件	4件	0件	0件	4件	2,168件
循環器呼吸器病センター	303件	814件	198件	9件	1,324件	0件	0件	0件	0件	1,324件
計	1,273件	6,065件	733件	157件	8,228件	14件	0件	0件	14件	8,242件

## 6 褥瘡患者発生率

[褥瘡患者発生率]

区分	平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	分子	分母	測定値	分子	分母	測定値	分子	分母	測定値
	新規褥瘡発生患者数 (新規褥瘡発生件数)	入院患者数 (延べ入院患者数)	褥瘡発生率	新規褥瘡発生患者数 (新規褥瘡発生件数)	入院患者数 (延べ入院患者数)	褥瘡発生率	新規褥瘡発生患者数 (新規褥瘡発生件数)	入院患者数 (延べ入院患者数)	褥瘡発生率
足柄上病院	76件	5,960人	1.28%	61件	6,384人	0.96%	83件	6,396人	1.30%
こども医療センター	102件	127,883人	0.08%	122件	126,949人	0.10%	163件	129,030人	0.13%
芹香病院	6件	2,974人	0.20%	8件	2,887人	0.28%	8件	3,127人	0.26%
せりがや病院	1件	359人	0.28%	0件	426人	0.00%	0件	349人	0.00%
がんセンター	78件	10,833人	0.72%	114件	11,905人	0.96%	93件	12,017人	0.77%
循環器呼吸器病センター	29件	4,238人	0.68%	37件	4,322人	0.86%	30件	4,396人	0.68%

こども医療センターのみ、分子は新規褥瘡発生件数、分母は延べ入院患者数

## 7 新卒看護師離職率

[新卒看護師離職率の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
病院機構の新卒看護師採用人数	93人	122人	127人	112人
病院機構の新卒看護師退職人数	8人	14人	7人	6人
病院機構の新卒看護師離職率	8.6%	11.5%	5.5%	5.4%
神奈川県の新卒看護師平均離職率	8.8%	8.8%	8.8%	-
全国の新卒看護師平均離職率	8.1%	7.5%	7.9%	-

## 8 専門・認定看護師数

[ 専門看護師等有資格者数実績 ]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
専門看護師	10人	15人	21人	23人
小児看護	4人	5人	6人	6人
がん看護	6人	7人	11人	12人
家族看護	0人	2人	2人	2人
慢性疾患看護	0人	1人	1人	1人
精神看護	0人	0人	1人	2人
認定看護管理者	4人	3人	5人	2人
認定看護師	53人	51人	52人	56人
皮膚・排泄ケア	5人	6人	6人	6人
集中ケア	8人	8人	8人	8人
がん性疼痛看護	17人	16人	15人	16人
がん化学療法	3人	3人	4人	4人
乳がん看護	1人	1人	1人	1人
緩和ケア	7人	6人	4人	4人
感染管理	7人	7人	7人	8人
糖尿病看護	1人	0人	2人	2人
小児救急看護	2人	2人	2人	2人
新生児集中ケア	2人	2人	2人	2人
救急看護	0人	0人	1人	1人
摂食・嚥下障害看護	0人	0人	0人	1人
慢性心不全看護	0人	0人	0人	1人
精神科認定看護師	5人	5人	5人	9人
計	72人	74人	83人	90人

## 9 糖尿病患者の血糖コントロールHbA1c < 6.9

[足柄上病院]

実績値 54.9% (目標値 40%)

(分子) HbA1c < 6.9の患者数 596人

(分母) インスリン又は経口血糖降下薬を処方されている患者数 1,086人

## 10 心筋梗塞の治療開始時間(Doorto Balloon Time)

[足柄上病院]

実績値 65.5% (目標値 60%)

(分子) 来院から初回冠動脈拡張術までの時間が90分以内の患者数 19人

(分母) 緊急冠動脈形成術施行患者数 29人

## 11 地域がん登録の登録率

[足柄上病院]

実績値 95.5% (目標値 80%)

(分子) 地域がん登録をしたがん患者数 336人

(分母) 全がん治療患者数 352人

## 12 1歳未満乳児外科施設基準対象手術件数

[こども医療センター]

実績値 64件 (目標値 110件)

- 13 ハイリスク妊娠取扱率  
[こども医療センター]  
実績値 174件 (目標値 210件)
- 14 患者・家族の意見を反映させた看護計画実施率  
[こども医療センター]  
実績値 91.6% (目標値 85%)  
(分子) 患者・家族の意見を反映させた看護計画の実施患者数 3,812人  
(分母) クリティカルパス適用及び一日入院患者を除いた入院実患者数 4,162人
- 15 在宅療養指導実施件数  
[こども医療センター]  
実績値 731件 (目標値 500件)
- 16 医療観察法の通院医療延患者数  
[精神医療センター 芹香病院]  
実績値 837人 (目標値 1,090人)
- 17 全県における救急病棟の措置入院の受入率  
[精神医療センター 芹香病院]  
実績値 17.7% (目標値 16%)  
(分子) 1年間の措置入院延件数 137件  
(分母) 1年間の全県の延措置入院件数 772件
- 18 外来患者への訪問看護延件数  
[精神医療センター 芹香病院]  
実績値 2,326件 (目標値 2,500件)
- 19 初診患者の紹介率  
[精神医療センター せりがや病院]  
実績値 35.7% (目標値 40%)  
(分子) 1年間の紹介患者延数 256人  
(分母) 1年間の初診患者延数 718人
- 20 主たる手術の包括算定の対象入院期間 以内の割合  
[がんセンター]  
肺の悪性腫瘍  
実施値 96.3% (目標値 90%以上)  
(分子) 包括算定の対象入院期間 (13日)以内の手術数 288件  
(分母) 手術数 299件  
胃の悪性腫瘍  
実施値 93.8% (目標値 90%以上)  
(分子) 包括算定の対象入院期間 (20日)以内の手術数 137件  
(分母) 手術数 146件

乳房の悪性腫瘍  
実施値 73.8% (目標値 70%以上)  
(分子) 包括算定の対象入院期間 (8日)以内の手術数 166件  
(分母) 手術数 225件

21 歯科口腔ケアの取組件数

[がんセンター]

実績値 68例 (目標値 200例)

22 英文原著論文数及びそのインパクトファクター

[がんセンター]

実績値 インパクトファクターの総和 73.467 (目標値40)

23 専門看護外来患者数

[がんセンター]

実績値 1,510人 (目標値 2,000人)

24 急性心筋梗塞患者における病院到着からP C Iによる再開通までの時間

[循環器呼吸器病センター]

実績値 70.0% (目標値 80%以上)

(分子) 来院から初回冠動脈拡張術までの時間が90分以内の患者数 21人

(分母) 緊急冠動脈形成術施行患者数 30人

25 心臓MRI検査件数

[循環器呼吸器病センター]

実績値 440件 (目標値 450件)

26 リハビリテーション実施件数

[循環器呼吸器病センター]

実績値 心臓リハビリテーション 2,523件 (目標値 2,500件)

呼吸器リハビリテーション 4,619件 (目標値 3,500件)

(2) 医療機器・施設整備の推進

ア 医療機器整備の推進 (小項目22)

医療ニーズの高度化・多様化や現有機器の老朽化に対応するため、医療機器の整備、更新を行った。

【高額医療機器】

[足柄上病院]

X線透視撮影装置

[こども医療センター]

病理顕微鏡システム

タンデム型質量分析装置

[がんセンター]

高精度放射線治療システム 等 24点 (新棟整備に伴う初度備品整備)

[ 循環器呼吸器病センター ]  
移動型透視用 X 線撮影装置

【通常医療機器】

[ 足柄上病院 ]  
内視鏡手術システム 等

[ こども医療センター ]  
分娩監視装置 等

[ がんセンター ]  
自動尿測定装置 等 ( 新棟整備に伴う初度備品整備 )

[ 循環器呼吸器病センター ]  
総合肺機能検査システム 等

イ 施設整備の推進

(ア) がんセンター総合整備の推進

がんセンター総合整備の推進 ( 小項目23 )

- ・ P F I 事業者である S P C との運営に関する協議、また、医療機器・備品の調達準備等について、定期的にワーキンググループによる検討を行うとともに、適切な進捗管理により効率良く進めた結果、予定通り平成25年11月に新病院での診療を開始した。
- ・ がん患者の増加や診断治療技術の急速な進歩に対応するため、新病院の開院にあわせ、C T、M R I、フローサイトメーター等、機能充実に向けた医療機器等を整備した。

【新がんセンターの整備概要】

施設名	新病院の概要 ( 現病院の概要 )	整備方針
外来診察室	56室 ( 32室 )	・ 外来待ち時間の短縮 ・ 手術待機患者の減少
外来化学療法室	50床 ( 24床 )	
手術室	12室 ( 6室 )	
採血ブース	8 ブース ( 5 ブース )	
放射線治療・検査	リニアック4台、P E T - C T、M R I などの最新機器の導入	・ 高度・最新のがん医療 ( 治療・診断・検査 ) の充実
内視鏡室	6室 ( 4室 )	
無菌病棟	30床 ( 20床 )	
緩和ケア病棟	20床 ( 14床 )	
病室	4人部屋 ( 6人部屋 )	・ 療養環境の改善
	トイレ等完備の個室 119室 ( 72室 )	
	デイルーム	
患者支援センター	会計、予約、相談等の窓口一元化等	・ 患者に優しく質の高い医療の提供
相談室	個室の多数設置	

( 参考 ) 【重粒子線治療施設概要】

建築面積	3,009.12㎡
延床面積	6,999.47㎡
階数	地上2階、地下1階建
建物構造	鉄筋コンクリート造
治療室数	4治療室 6治療ポート

- ・ 平成27年12月に予定している重粒子線治療の開始に向け、引き続き建屋の建設及び装置製造を行った。

### (イ) 精神医療センター総合整備の推進

精神医療センター総合整備の推進（小項目24）

- ・精神医療センター総合整備計画に基づき、施設の老朽化や新たな精神科医療への対応、さらには芹香病院とせりがや病院の統合による効率的な病院運営を図るため、平成26年12月の新病院開院に向けて、建築工事を着実に進めた。
- ・芹香病院とせりがや病院の統合など新病院の円滑な運営体制について、センター内に設置した総合運営検討会議等で検討を進めた。

【新棟（新病院）の概要】

病床数	8病棟290床
建築面積	5,570.52㎡
延床面積	18,462.53㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 5階建 免震構造、太陽光発電設備を設置

### (3) 地域医療連携の強化

地域医療連携の強化（小項目25）

- ・各病院の機能や地域の状況を踏まえ、質の高い医療を効率的に提供するため、地域の医療機関との連携強化を図り、紹介・逆紹介の充実に努めた。
- ・神奈川県立病院地域医療連携連絡会議を4回開催し、各病院の地域医療連携に関する情報を共有するとともに、連携方策の検討を行った。

（参考）[紹介件数の及び紹介率の実績]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	紹介件数	紹介率	紹介件数	紹介率	紹介件数	紹介率	紹介件数	紹介率
足柄上病院	7,114件	38.1%	7,115件	37.4%	7,460件	38.4%	7,943件	42.4%
こども医療センター	7,084件	95.4%	7,221件	95.7%	7,494件	96.7%	7,662件	97.3%
芹香病院	335件	47.1%	297件	52.4%	322件	53.8%	289件	50.6%
せりがや病院	260件	35.4%	242件	34.9%	285件	38.3%	256件	35.7%
がんセンター	5,195件	99.0%	5,079件	99.2%	5,478件	99.8%	5,964件	99.2%
循環器呼吸器病センター	4,550件	71.7%	4,200件	69.2%	4,052件	70.1%	4,319件	69.1%
計	24,538件	-	24,154件	-	25,091件	-	26,433件	-

（参考）[逆紹介件数の及び逆紹介率の実績]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	逆紹介件数	逆紹介率	逆紹介件数	逆紹介率	逆紹介件数	逆紹介率	逆紹介件数	逆紹介率
足柄上病院	2,768件	16.1%	2,889件	16.3%	3,424件	19.1%	4,304件	25.1%
こども医療センター	4,061件	54.7%	4,325件	57.3%	4,880件	62.9%	5,166件	65.6%
芹香病院	352件	49.5%	481件	84.8%	351件	58.7%	255件	44.7%
せりがや病院	211件	28.7%	220件	31.7%	244件	32.8%	270件	37.6%
がんセンター	1,746件	33.3%	1,518件	29.7%	1,508件	27.5%	2,358件	39.2%
循環器呼吸器病センター	3,279件	51.7%	3,730件	61.4%	4,244件	73.4%	3,982件	63.7%
計	12,417件	-	13,163件	-	14,651件	-	16,335件	-

[足柄上病院]

- ・急性期治療、地域医療機関はリハビリテーション等の回復期治療を担う医療機関として、連携を進めるとともに、平成25年度は鶴巻温泉病院など3医療機関と「脳卒中地域連携パス」24件を運用した。
- ・足柄上医師会との足柄上臨床研究会の定期開催や、地域医療機関及び福祉施設等を訪問し、患者状況を報告するなど、紹介率・逆紹介率の向上に努めた。

[ 足柄上病院の紹介率・逆紹介率の実績と目標値 ]

区分	平成25年度	
	目標値	実績
紹介率	45%	42.4%
逆紹介率	20%	25.1%

- ・ 高度医療機器の共同利用  
C T 267件    M R I 92件    計359件

[ こども医療センター ]

・平成25年4月に「小児がん相談支援室」を設置し、相談窓口、医師、小児看護専門看護師などが、827件の相談に対応した。

また、「退院・在宅医療支援室」を設置し、在宅医療や退院調整に関する相談など1,688件に対応したほか、退院調整専従の看護師をはじめとした多職種が連携したカンファレンスを行い、新生児退院支援計画書及び15歳以上を対象とした退院支援計画書を策定するなど退院調整に努めた。

・訪問看護ステーションの看護師の初回訪問時に同行する「退院後訪問看護」を12回実施したほか、入院看護概要を訪問看護ステーションに提供した。

また、地域医療機関の看護職員向け医療ケア実技研修会を6回開催し、74施設、延べ194名が参加するなど、医療ケアが在宅医療以降後も継続できるよう取り組んだ結果、退院した患者の受入対応可能な訪問看護ステーションが、平成24年度の110機関に比べ37機関増の147機関となった。

[ こども医療センターの退院後訪問看護件数の実績と目標値 ]

平成25年度	
目標値	実績
20件	12件

- ・ 医療機関、訪問看護ステーションに病院案内パンフレットの送付や、医療従事者向け公開講座の開催及び個別医療機関訪問など地域医療機関との連携強化を図った。
- ・ 地域医療支援病院として、登録医療機関の増加を図るため、未登録医療機関に対し、案内を送付した結果、平成24年度末に比べ15医療機関増の386医療機関となった。
- ・ 吸引器、吸入器などの在宅医療機器のデモンストレーション機を災害時用のものも含めて整備し、患者の在宅医療移行後の不安の解消に努めた。

[ 芹香病院 ]

・精神科救急医療システムの構成団体（県、横浜市、川崎市、相模原市）と連携、協議を行い、精神科救急の受入を推進した。また、診療所等を訪問し、ストレスケア病棟の紹介を行った。

・ かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議（年4回）を継続して主宰し、県内の医療観察法の指定医療機関、保護観察所、サービス事業所、行政機関及び県外関係者等との連携強化を図った。

・ 地域移行や地域生活支援のため、地域の保健所やサービス事業所が参加したケア会議の開催や、アウトリーチや精神保健福祉法改正などに関する研修を開催した。

[ せりがや病院 ]

・保健所等の行政機関との連携協議の実施や、薬物乱用防止教室による普及啓発を小学生から短大生まで実施した。

[ がんセンター ]

・地域医療機関と連携して継続した治療を行うため、新たに連携病床を設置し、地域全体における医療機能の充実や医療の質の向上に努めた。  
・新たに電子カルテシステムを活用した地域連携システムを導入し、地域の15の医療機関との診療情報の共有を行うなど、医療提供体制の維持や効率化を図った。  
・地域の歯科医療機関との連携によるがん患者の口腔ケアを68件実施し、歯科治療に努めた。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・高度医療機器の共同利用を推進するため、地域医療機関への働きかけを積極的に行い、依頼検査件数は、前年度比190件増の1,000件となった。また、オンライン検査予約が可能な登録医療機関数は、前年度から5機関増え、33機関となった。

高度医療機器の共同利用（依頼検査の実施）

C T 606件、M R I 274件、心臓超音波73件 他 計 1,000件

・「肺がん包括診療センター」と「気胸センター」の平成25年度開設にあたり、新規患者を確保するため、医療機関への訪問や講演会等を開催し、診療内容及び診療実績等に係る情報提供等を行うとともに、地域の医師会等と協力して症例検討会を実施した。

#### (4) 臨床研究の推進

##### ア 臨床研究

##### (ア) がんセンター

がんセンターにおける臨床研究の推進（小項目26）

・臨床研究所研究員と臨床各科の医師あるいは外部機関の研究院等と、がんの早期発見、治療等についての共同研究を行い、その研究成果を業績集の発行や成果報告会により報告するとともに、英文原著論文や学会発表を行った。

[ 臨床研究に関する実績と目標値 ]

区分	平成25年度目標値	平成25年度実績
英文論文数	20編	34編
論文インパクトファクターの総和	40	73.467
文部科学省・厚生労働省科学研究費取得件数	研究員の80%以上	研究員の76.9%

・神奈川県のがんの罹患数及び罹患率を調査するため、神奈川県悪性新生物登録事業として県内医療機関の理解と協力を得て地域がん登録を進めた。

(参考) [ 神奈川県がん登録事業の登録件数実績 ]

平成23年度	平成24年度	平成25年度
70,893件	70,161件	78,665件

・実験中央動物研究所と共同でヒト外科切除がん組織の免疫不全マウスゼノグラフトを組織的に作製し、がん個別化医療研究の基盤、創薬基盤の確立を進めた。  
・産学公の連携により、がんの臨床研究を促進し、適切ながん情報を患者に提供するため、神奈川がん臨床研究・情報機構において貴重な研究試料である腫瘍組織の収集を行った。

[ 神奈川がん臨床研究・情報機構における腫瘍組織収集の実績と目標値 ]

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
600件	506件	540件	648件	540件	650件	540件	613件

・研究開発段階にあるがんペプチドワクチンについて臨床研究を行う「がんワクチンセンター」の設置に向け、検討を行った。

#### (イ) その他の病院における臨床研究の推進

その他の病院における臨床研究の推進（小項目27）

各病院の特性を活かし、診断技法・治療法の開発及び臨床応用のための研究に取り組むとともに、論文や学会において発表を行うなど、臨床研究を推進した。

##### [ 足柄上病院 ]

・「高度腹膜播種を伴う胃癌に対し長期間化学療法後にサルベージ手術を試行した1例」（外科学会誌）、「THA後のシステム周辺骨折の治療 - 特に骨接合術について -」（関節外科学会誌）などの論文を学会誌に掲載した。

また、「Surgical Apgar Scoreを用いた急性胆嚢炎症例における合併症予測」など学会発表を行った。

##### [ こども医療センター ]

・任期付研究員を配置し、岡山大学と共同でGAMT欠損症患者の確定診断を国内で初めて行ったほか、マイクロアレイ染色体解析及び次世代シーケンスを駆使した希少難病の遺伝子診断システムの構築に貢献し、その成果を国内学会及び国際学会で発表した。

・横浜市立大学との連携大学院協定に基づき、平成24年度に引き続き医師5人が客員教授として研究活動を行ったほか、医師4人が大学院生として研修し、また、大学院研究生が研修医等として豊富な症例に接するなど、臨床研究の推進に取り組んだ。

さらに、小児医療分野の研究の一層の連携・発展を図るため、平成25年11月に慶應義塾大学医学部・大学院医学研究科と連携協力に関する協定を締結した。

##### [ 精神医療センター ]

・ニューロモデュレーション研究、依存症研究及び東洋医学研究等の臨床研究の充実に努めた。

・反復性経頭蓋磁気刺激法（rTMS）に関する論文発表や学会発表を行い、「Potentiation on quantitative electroencephalograms following Prefrontal Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation in Patients with Major Depression.（うつ病患者への前頭前野rTMSによる脳波のパワー増強効果）」について、国際学会（世界生物学的精神医学会）で賞を受けた。

##### [ 循環器呼吸器病センター ]

・厚生労働科学研究難治性疾患等克服事業の調査研究班とともに間質性肺炎の患者及び家族等を対象とした学習会を開催し、治療法や看護の情報提供とともに臨床研究の成果について報告を行った。

- ・高い水準での肺がん医療を提供するため、新規薬剤の開発治験やがん治療専門施設による多施設共同試験等、多数の臨床試験治療を実施した。

## イ 治験

### (ア) こども医療センター

こども医療センターにおける治験の推進（小項目28）

- ・平成25年度の治験受託件数は24件で、うち希少疾病用の医薬品の治験受託件数は3件、うち小児の抗がん剤の治験受託件数は2件、うち国際共同治験は6件であった。
- ・また、国内未承認の医薬品と医療機器に係る医師主導治験を各1件開始した。
- ・なお、治験契約症例数は55人であった。
- ・国内32施設が登録する小児治験ネットワークを通じた治験契約を7件受託し、他の医療機関と連携した小児医療の治験に積極的に取り組み、治験の質の向上及び効率化を図るとともに、小児医薬品の早期開発を推進した。
- ・治験管理システムを活用し、治験契約ごとの進捗管理の効率化を図ったほか、精度管理の向上に努めた。
- ・平成25年9月から事務局職員1名を治験管理室兼務とし、事務機能の強化を図った。

(参考)[治験受託件数及び症例数]

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
治験受託件数	-	17件	22件	24件
うち希少疾病用医薬品の治験受託	-	2件	2件	3件
うち小児の抗がん剤の治験受託	-	-	1件	2件
うち国際共同治験	-	3件	4件	6件
治験契約症例数	41件	42件	52件	55件

### (イ) その他の病院における治験の推進

その他の病院における治験の推進（小項目29）

各病院の特性及び機能を生かし、新薬の開発等に寄与し、治療の効果及び安全性を高めるための治験を推進した。

[ 足柄上病院 ]

- ・抗がん剤や肺高血圧症治療薬などの医薬品について治験や受託研究に取り組んだ。

[ 芹香病院 ]

- ・統合失調症患者及びうつ患者を対象とした投与試験を実施した。

[ がんセンター ]

・治験の領域別では乳がん11件、肝細胞がん9件、肺がん9件、胃がん7件など治験契約件数計59件を実施し、登録症例数累計では延べ311件の実績となった。

また、平成24年度からホームページに実施中の治験を掲載し、治験を希望する患者及び治験依頼者の医療機関選定に対して情報提供を行った。

- ・治験管理システムを活用した治験の情報の共有化や進捗管理を行ったことにより、職員の事務の効率化を推進するなど、安全な治験の実施や治験受託件数の拡大を図った。

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・ 肺がん包括診療センターの取組を外部に発信し、抗がん剤の治験受託件数の増加を図った。

(参考) [治験実施状況]

区分	治験受託件数				受託研究件数			
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	12件	12件	12件	11件	44件	42件	40件	38件
こども医療センター	15件	17件	22件	24件	64件	63件	62件	53件
芹香病院	9件	8件	8件	7件	0件	0件	0件	0件
がんセンター	37件	43件	47件	59件	46件	50件	58件	55件
循環器呼吸器病センター	28件	30件	29件	42件	46件	40件	39件	39件
計	101件	110件	118件	143件	200件	195件	199件	185件

## 2 安全で安心な医療の提供

### (1) 安全で安心な医療を支える医療体制の整備 (小項目30)

- ・ 各病院において、様々な多職種チームによる患者支援の取組を行うとともに、褥瘡については、対策会議や研修会の開催をはじめとして、褥瘡患者の治療並びに防止対策の実施及びその評価を行う仕組みを構築している。
- ・ こども医療センター、がんセンター及び循環器呼吸器病センターが連携した医療機器の保守点検のノウハウの共有化に取り組んだ。
- ・ 看護師確保対策として、看護師採用試験を毎月実施し、また、採用活動へとつなげていくことを目的としてフェイスブックを活用し、病院のタイムリーな情報を全国的に発信した。
- ・ 各病院の取組は次のとおりである。

[ 足柄上病院 ]

- ・ 月1回褥瘡リンクナース会議を開催し、褥瘡リスクの保有、発生状況の分析等を行い、早期治癒に向けた検討を行うとともに、褥瘡対策会議を開催した。

[ こども医療センター ]

- ・ 小児病院の特性で胃ろうの患者が増加傾向にあることから、NSTでは胃ろうから「食べる」ミキサー食注入に積極的に取り組み、マニュアル本「胃ろうからミキサー食注入のすすめ」を刊行した。
- ・ 褥瘡診療部会及び診療ケア部会を毎月1回開催した。
- ・ 点滴シーネの褥瘡発生防止のため、3日に1回のシーネの当て直し又は交換の徹底及び皮膚観察の強化を図った。また、重症心身障害児施設では、枕にかかる体圧を測定し、枕の置き方の工夫などの褥瘡発生予防策を講じた。
- ・ 訪問看護ステーション向け医療ケア実技研修会を開催(参加者24名)し、小児の褥瘡防止に関する情報を発信したほか、褥瘡管理者が他病院の褥瘡対策会議に出席し、褥瘡ケア指導を実施した。

[ 芹香病院 ]

- ・ 他の病院の皮膚・排泄ケア認定看護師に褥瘡ケア・褥瘡対策会議のコンサルテーション・勉強会を依頼するとともに、ケア用品を導入して褥瘡の治癒、改善に繋げた。
- また、褥瘡マニュアルを作成した。

[ せりがや病院 ]

・褥瘡対策部会、会議において褥瘡の発生状況の確認を行い、より効果的な褥瘡発生予防対策について検討し、実施した。

[ がんセンター ]

・定期的な褥瘡対策チームによる回診を137回実施するとともに、勉強会などにより褥瘡の早期発見や予防対策の啓発に努めた。  
 ・体圧分散寝具内臓の手術台を設置したことにより、手術領域における褥瘡の発生を防止した。  
 ・職員に対し医療安全フォーラムの開催や褥瘡に関する広報活動を行った。  
 ・体位変換枕、姿勢安定枕、座面クッション及びエアーマットを整備するとともに、体圧分散性能を持つマットレスを全病床分整えた。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・褥瘡防止対策会議のメンバーを中心に定期的にラウンドを行い、褥瘡の発生予防や悪化防止に努めた。  
 ・院内で開催した安全フォーラムにおけるスキンケア製品、体圧分散寝具等の展示や、ラウンド時の外部専門家による実地指導などにより、職員の知識、技術の向上を図った。

( 参考 ) [ 褥瘡患者発生率 ]

区分	平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	分子	分母	測定値	分子	分母	測定値	分子	分母	測定値
	新規褥瘡発生患者数 (新規褥瘡発生件数)	入院患者数 (延べ入院患者数)	褥瘡発生率	新規褥瘡発生患者数 (新規褥瘡発生件数)	入院患者数 (延べ入院患者数)	褥瘡発生率	新規褥瘡発生患者数 (新規褥瘡発生件数)	入院患者数 (延べ入院患者数)	褥瘡発生率
足柄上病院	76件	5,960人	1.28%	61件	6,384人	0.96%	83件	6,396人	1.30%
こども医療センター	102件	127,883人	0.08%	122件	126,949人	0.10%	163件	129,030人	0.13%
芹香病院	6件	2,974人	0.20%	8件	2,887人	0.28%	8件	3,127人	0.26%
せりがや病院	1件	359人	0.28%	0件	426人	0.00%	0件	349人	0.00%
がんセンター	78件	10,833人	0.72%	114件	11,905人	0.96%	93件	12,017人	0.77%
循環器呼吸器病センター	29件	4,238人	0.68%	37件	4,322人	0.86%	30件	4,396人	0.68%

こども医療センターのみ、分子は新規褥瘡発生件数、分母は延べ入院患者数

(2) 医療安全対策の推進

医療安全対策の推進 ( 小項目31 )

・ヒヤリ・ハット事例、医療事故件数は、レベル0及びレベル1の増により、総数が前年度対比で増加したが、患者に高度の後遺症が残る可能性が生じた事例 ( レベル4 ) や、患者が死亡する事例 ( レベル5 ) については、3年連続で発生はなかった。  
 ・医療安全対策ワーキンググループを5回開催 ( 4月、5月、7月、10月、1月 ) し、各県立病院の医療事故等の事例報告、事故防止策、再発防止策を確認、検討し共有した。  
 ・院内での苦情、相談や事故後の初期対応への円滑な対応に関して、院内ADRの検討を行うため、平成25年5月に神奈川県立ADR検討会議を新たに設置し、会議を3回開催 ( 7月、11月、2月 ) するとともに、研修を実施するなど、医療安全の一層の充実・強化に取り組んだ。

研修日程 平成26年2月26日、27日

参加者 28名

(参考) [ヒヤリ・ハット事例、医療事故のレベル別発生件数の実績]

区分		平成23年度	平成24年度	平成25年度
ヒヤリ・ハット事例	0	1,150件	1,128件	1,273件
	1	5,611件	5,899件	6,065件
	2	810件	760件	733件
	3a	100件	159件	157件
医療事故	3b	22件	12件	14件
	4	0件	0件	0件
	5	0件	0件	0件
計		7,693件	7,958件	8,242件

(参考) [医療安全に関する会議及び研修の実績]

平成25年度	医療安全会議	リスクマネージャー会議	医療安全に関する研修
	回数	回数	参加者数
足柄上病院	12回	12回	2,007人
こども医療センター	12回	6回	2,279人
芹香病院	12回	12回	951人
せりがや病院	11回	11回	195人
がんセンター	12回	12回	1,602人
循環器呼吸器病センター	11回	11回	1,399人
計	70回	64回	8,433人

#### [ 足柄上病院 ]

- ・有害事象・合併症報告について検討し、報告の目的・報告項目を明確にするとともに、e Power/CLIP (インシデント報告分析支援システム) の運用を開始した。
- ・薬剤の患者誤認防止対策として、点滴ラベルにチェックボックスを作成し6 R (正しい患者・正しい薬剤・正しい時間・正しい量・正しい経路・正しい速度)を確認しながら、チェックを実施するように周知をした。
- ・検体容器の適正管理について、医療安全巡回をし、適正な定数管理・期限の表示など改善提案を行った。

#### [ こども医療センター ]

- ・投与量が幅広い小児に対し、抗菌剤溶解基準を定め溶解濃度を標準化した。これにより薬剤量と薬液量が統一され、抗菌剤の過剰投与事故の防止につながった。
- ・重大医療事故につながる可能性のある警鐘事例を選定し、関連セクションへ再発防止策の検討と文書化を働きかけ、会議などを通じて周知を図った。

#### [ 精神医療センター ]

- ・「デイケアの事故対策マニュアル」、「作業療法科事故対策マニュアル」の事故発生時の対応を見直すとともに、緊急時に速やかな対応ができるよう院内に周知した。
- また、誤嚥・窒息予防をテーマに栄養管理科と協力し、体験形式の事故防止研修会を開催し、食事場面と日常での患者支援についての学習会を行った。
- ・事故の再発防止のため、作業療法時に使用する折りたたみ式の机の開閉について職員のみが行うことや、転倒による受傷防止のための窓枠の保護などの安全対策を実施した。

[ がんセンター ]

・患者誤認防止対策を強化するため、入院患者における放射線検査時にもバーコード認証システムを導入した。また、習慣的に行ってきた診察券の預かりを外来・病棟ともに廃止した。

・医療安全研修は必須研修を2回実施することにより、全職員が同じテーマで研修を受講できるよう計画し、職員の受講機会を増やすことにつながった。

また、ワーキングでは複数の職種を混じえ検討できるよう調整した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・高侵襲検査・治療・処置場面において、同意書の不備や処置部位の間違いをなくすことを目的に、手術時と同様に『タイムアウト確認書』により関係者（患者・医師・看護師・検査技師等）全員が一斉に手を止めて、確認事項の声出し・指差しにより確認を行うこととするよう定めた。

### (3) 感染症対策の強化

感染症対策の強化（小項目32）

・神奈川県立病院感染防止対策会議を4回実施し、県立病院が共通した感染対策マニュアルの作成や、感染管理教育の仕組み、方法等について検討した。

また、感染防止対策会議専用のホームページを利用し、会議委員である各病院の感染管理者同士の迅速な情報共有や連携に努めた。

・各病院において、院内ラウンドや研修会、また会議等の実施により、情報共有や職員の感染防止に対する意識の向上に努めるなど、発生防止や拡大防止策の強化に努めた。

[ 足柄上病院、こども医療センター、がんセンター、循環器呼吸器病センター ]

・各県立病院間の相互評価ラウンドを行い、特にこども医療センター及びがんセンターにおいて、県立病院以外の病院との間で実施するなど、積極的に感染防止対策を推進した。

・他の医療機関と連携した合同カンファレンス等を実施し、感染対策の情報共有、手指衛生サーベイランス等の取組を推進した。

[ こども医療センター、がんセンター、循環器呼吸器病センター ]

・小児感染症、医療関連感染（BSI・SSI等）を把握し、院内ラウンドや抗菌剤の適正使用などの対策を実施した。

[ 足柄上病院、こども医療センター、循環器呼吸器病センター ]

・風疹の流行に対し、職員等の抗体値検査とワクチン接種を行い、院内感染の拡大防止に努めた。

[ こども医療センター ]

・MRSAの保菌状況の把握を毎週行い、検出率の高い病棟にあっては感染対策の見直し、徹底を図った。また、診療科別の対応として、抗菌薬の使用届の提出の徹底を図り、主治医とのカンファレンスを行い、抗菌薬の適正使用を推進した。

(参考) [院内感染防止会議の開催実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	12回	12回	12回	12回
こども医療センター	11回	11回	12回	12回
芹香病院	11回	12回	12回	12回
せりがや病院	12回	12回	11回	11回
がんセンター	12回	12回	14回	12回
循環器呼吸器病センター	11回	12回	16回	11回
計	69回	71回	77回	70回

(参考) [感染症防止院内研修の開催実績]

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	10回	14回	20回
こども医療センター	7回	7回	5回
芹香病院	3回	3回	3回
せりがや病院	3回	3回	3回
がんセンター	19回	13回	12回
循環器呼吸器病センター	15回	16回	12回
計	57回	56回	55回

#### (4) 災害対策の推進

災害対策の推進 (小項目33)

- ・各病院において、災害発生時に備え医薬品等を備蓄するとともに、防災訓練を実施した。

(参考) [防災訓練実施回数及び防災訓練参加者数の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
防災訓練実施回数	12回	14回	14回	15回
防災訓練参加者数	2,316人	1,649人	1,537人	1,442人

[足柄上病院]

- ・DMAT体制強化のため、平成25年11月に新たに隊員1名を養成したほか、厚生労働省主催の広域医療搬送訓練に参加するなど実践的な訓練を実施した。

(DMAT訓練)

広域医療搬送訓練(和歌山) 平成25年8月  
DMAT関東ブロック訓練(神奈川) 平成25年9月  
ビッグレスキューかながわ 平成25年9月

- ・DMAT活動に必要な医療機器として、携帯型超音波診断装置、自動体外式除細動器等4機器を整備した。
- ・地域住民に対しDMATの役割や活動等について講演を行った。
- ・県西地域の災害医療拠点病院として災害時対応の強化を図り、例年実施している防災訓練のほか、机上訓練を平成25年6月及び10月に実施した。また、発災初動時の行動指標(アクションカード)を各セクション毎に新たに作成し、訓練を通して見直しを行うとともに、初動時の行動について全職員への周知徹底を図った。

[こども医療センター]

- ・夜間想定防災訓練、転入職員対象防災訓練といった目的や対象を明確にした防災訓練を実施した。

また、訓練内容も出火場所を秘匿とするなど、より実践的な訓練とした。

[ 精神医療センター ]

- ・ 出火時により迅速に情報伝達ができるように防災マニュアルを改定するとともに、改定したマニュアルに沿って防災訓練（芹香病院 2 回、せりがや病院 2 回）を実施し、検証を行った。
- ・ 平成26年12月の新病院の開棟に向け、免震構造による建物の建築工事を進めた。

[ がんセンター ]

- ・ 平成25年11月に免震構造の新病院を開棟した。
- ・ がんセンター職員とSPC職員の合同による、スプリンクラー誤作動に対するバルブ閉鎖動作確認などの実技訓練を実施した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・ 総合訓練、夜間想定訓練を各 1 回いずれも状況付与型訓練として実施した。特に総合訓練については、事前に各部署によるアクションカードの作成やワーキンググループでトリアージの実施方法の具体的な検討を行うなど、実効性のある訓練に取り組んだ。

## (5) 情報セキュリティの強化

### 情報セキュリティの強化（小項目34）

- ・ 神奈川県立病院機構独自のネットワークについて、ネットワークへの接続は予め登録した共通利用パソコン等に制限し、また、ウイルス対策ソフトは、常に最新の情報に更新するなど、セキュリティ対策を講じている。
- ・ 災害等によるデータ損失を防止するため、各所属に設置したファイルサーバのデータ及び人事給与システム、財務会計システムのバックアップを自動取得するとともに、遠隔地への保管を引き続き実施している。
- ・ 情報セキュリティポリシーに対する理解を深めるため、新採用及び転入職員、また、各所属においても情報セキュリティ研修を実施し、日常業務における情報管理、セキュリティ対策のポイントや注意事項を説明した。

（参考）「情報セキュリティ研修参加者数の実績」

実施日	対象	参加者数
4月5日	新採用職員・転入職員向け	231人
10月15日	本部事務局	26人
12月17日	こども医療センター	100人
1月16日	足柄上病院	65人
1月20日	こども医療センター	84人
2月5日	精神医療センター	38人
2月20日	循環器呼吸器病センター	26人
	計	570人

- ・ 新たに幹部職員を対象として、情報セキュリティに関する研修を開催した。

## 3 患者の視点に立った病院運営

### (1) 患者にとって分かりやすい医療の提供

#### クリティカルパスの適用状況（小項目35）

各病院において、患者及び家族が治療内容を理解した上で診療を受けられるよう、インフォームドコンセントを推進するとともに、質の高い医療を計画的に提供できる

よう、クリティカルパスの実施状況を確認し、新規作成や見直しを行うなど、適用範囲の拡大に努めた。

(参考) [クリティカルパスの件数実績]

病院名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度			
				新規	改定(見直し)	廃止	件数
足柄上病院	66件	70件	71件	5件	11件	3件	73件
こども医療センター	28件	29件	89件	5件	4件	6件	88件
芹香病院	3件	3件	3件	1件	0件	0件	4件
せりがや病院	2件	3件	4件	1件	2件	0件	5件
がんセンター	50件	32件	37件	10件	13件	0件	47件
循環器呼吸器病センター	18件	20件	21件	3件	7件	3件	21件
計	167件	157件	225件	25件	37件	12件	238件

#### [ 足柄上病院 ]

・クリティカルパス検討会議を7回開催し、平成25年度に「大腸内視鏡・粘膜切除」など新規のクリティカルパス5件を作成するとともに、「内視鏡的逆行性胆管膵管造影」等11件の見直しを行った。

#### [ こども医療センター ]

・クリティカルパス検討会議を2回開催し、「1泊2日用斜視手術パス」など5件作成した。

#### [ 芹香病院 ]

・救急病棟を中心に運用する予定で「統合失調症パス」を作成した。

#### [ せりがや病院 ]

・クリティカルパス検討会議を3回開催し、実施状況等の確認を行うとともに、「保護室再入室クリティカルパス」を新たに作成した。

#### [ がんセンター ]

・クリティカルパス検討会議を10回開催し、「病棟一泊入室クリティカルパス」をはじめとして10件を新規に作成するとともに、13件の見直しを行った。

#### [ 循環器呼吸器病センター ]

・クリティカルパス検討会議を6回開催し、新たに「気管支動脈造影・動脈塞栓術」ほか2件を作成するとともに、7件の見直しを行った。

#### 医療福祉相談等の実施(小項目36)

・各病院の地域医療連携室等において、医療関係のみならず、経済的・心理的な問題なども含めた多様な相談に対応し、患者、家族が不安を解消したうえで診療を受けられるように努めた。

#### [ 足柄上病院 ]

・地域医療連携室、患者さん相談室において専門相談員が患者・家族との対面相談を行い、問題解決のための取組を実施した。

#### [ こども医療センター ]

・従来の保健福祉相談室の機能を見直し、患者家族の相談支援に特化した医療福祉相談室と保健行政との連携に特化した母子保健推進室に再編整備した。

・神奈川県から受託している小児救急電話相談(#8000)事業については、平成24年度比28件増の14,117件の相談に対応した。

・平成25年4月に小児がん相談支援室を設置し、相談窓口、医師や小児看護専門看護師などが827件の相談に対応した。

・「新しい命のためのサポートセンター」を設置し、平成25年6月から産婦人科、遺伝科などの医師や認定遺伝カウンセラーらが先天性の障がいや疾患に関する相談に応じ、心理的、社会的サポートを通して当事者の自律的な意思決定を支援した。

遺伝カウンセリング外来	93家族
妊娠前外来	33家族
胎児相談外来	19家族
胎児心臓病外来	延642人

・ボランティアと連携し、受診を検討中の患者・家族の不安を軽減するため、2組の患者・家族の見学希望に対応し、病院の機能や施設について紹介した。

#### [ 芹香病院 ]

・地域医療相談室において、救急、ストレスケアをはじめとした患者、家族からの各種相談に対応した。また、医療観察制度への対応においては、病棟専任スタッフによる体制作りを進め、患者や家族に対する制度の説明や相談に応じ、家族会を開催した。

#### [ せりがや病院 ]

・心理・相談科において、依存症により生じた家族関係や就業・経済的問題など、社会的側面の問題を持つ患者・家族に対して相談に応じた。また、受診していない者の家族からの相談に着目して面接相談を行い、受診に繋げた。

#### [ がんセンター ]

・医療相談支援室及び神奈川がん臨床研究・情報機構情報センターにおいて、看護師やソーシャルワーカーが、経済的問題及び家庭環境に係る医療福祉問題等幅広い相談に応じた。

・新病院に相談個室や患者向けの情報コーナーを設置し、患者や家族が抱える悩みへの対応やがんに関する各種情報の提供を行った。

・新たに化学療法患者を対象とした栄養・料理セミナーを2回実施したほか、管理栄養士による個別・集団栄養指導や栄養サポート外来、また、栄養サポートチーム(NST)による栄養管理の向上への取組など、患者の状況に合わせた適切な栄養療法により、生活の質の向上を図った。

#### [ 循環器呼吸器病センター ]

・地域連携室の看護師、ソーシャルワーカーが地域の医療機関を積極的に訪問し、連携を深めることにより、患者・家族が地域の医療サービスを安心して受けられるよう相談体制の充実を図った。

(参考) [相談件数実績 (地域医療連携室等への診療相談)]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	11,473件	11,264件	11,439件	10,793件
こども医療センター	24,130件	21,933件	27,137件	15,751件
芹香病院	4,593件	4,679件	4,817件	4,208件
せりがや病院	270件	391件	498件	453件
がんセンター	9,825件	9,354件	8,352件	10,874件
循環器呼吸器病センター	8,284件	11,416件	14,497件	13,786件
計	58,575件	59,037件	66,740件	55,865件

(参考) [がんセンターにおける相談件数 (内訳)]

平成25年度実績	医療相談支援室	がん臨床研究・情報機構	計
相談延件数	9,357件	1,517件	10,874件
うち電話	3,981件		3,981件

### セカンドオピニオンの推進 (小項目37)

- ・各病院において、患者がより適した治療方法を選択できるよう、院内掲示やホームページ上での案内など、セカンドオピニオンの推進に努めた。

(参考) [セカンドオピニオン件数の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	1件	2件	0件	0件
こども医療センター	39件	33件	63件	32件
芹香病院	2件	3件	12件	11件
せりがや病院	1件	1件	0件	0件
がんセンター	686件	668件	689件	792件
循環器呼吸器病センター	43件	40件	55件	51件
計	772件	747件	819件	886件

### 患者満足度調査の実施 (小項目38)

- ・各病院において、病院の運営改善を図るとともに、多様化している患者等の意見を把握するため、入院・外来患者等を対象とした患者満足度調査を実施した。
- ・患者満足度調査においては、共通項目として、「全体的にこの病院に満足している」の設問を設定しており、結果は次のとおりである。

(参考) [満足度調査結果 (平成22年度)]

区分	入院		外来	
	回答総数	満足度	回答総数	満足度
足柄上病院	125人	95.6%	450人	51.0%
こども医療センター	216人	79.0%	1,180人	53.3%
芹香病院	136人	65.5%	272人	62.0%
せりがや病院	44人	66.5%	-	-
がんセンター	285人	91.5%	787人	83.1%
循環器呼吸器病センター	136人	88.2%	215人	85.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

(参考) [満足度調査結果(平成23年度)]

区分	入院			外来		
	満足評価	回答総数	満足度	満足評価	回答総数	満足度
足柄上病院	95人	99人	96.0%	171人	221人	77.4%
こども医療センター	129人	160人	80.6%	1,012人	1,298人	78.0%
芹香病院	79人	125人	63.2%	156人	301人	51.8%
せりがや病院	31人	43人	72.1%	131人	165人	79.4%
がんセンター	261人	295人	88.5%	630人	765人	82.4%
循環器呼吸器病センター	183人	210人	87.1%	365人	412人	88.6%

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

(参考) [満足度調査結果(平成24年度)]

区分	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	93人	98人	94.9%	200	217人	258人	84.1%	390
こども医療センター	135人	158人	85.4%	313	723人	972人	74.4%	2,000
芹香病院	69人	111人	62.2%	127	171人	345人	49.6%	345
せりがや病院	33人	43人	76.7%	52	98人	105人	93.3%	112
がんセンター	284人	311人	91.3%	378	574人	704人	81.5%	843
循環器呼吸器病センター	163人	185人	88.1%	400	342人	397人	86.1%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

(参考) [満足度調査結果(平成25年度)]

区分	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	配布数	満足評価	回答総数	満足度	配布数
足柄上病院	73人	78人	93.6%	200	187人	226人	82.7%	400
こども医療センター	178人	193人	92.2%	352	723人	913人	79.2%	1,717
芹香病院	82人	121人	67.8%	158	138人	280人	49.3%	280
せりがや病院	30人	35人	85.7%	39	123人	139人	88.5%	159
がんセンター	313人	332人	94.3%	344	720人	789人	91.3%	876
循環器呼吸器病センター	161人	178人	90.4%	300	362人	405人	89.4%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

### [足柄上病院]

・定期的なワックスがけでは落ちにくい外来ロビーや通路等の床面の汚れについて、剥離清掃を重点的に実施した。

### [こども医療センター]

<患者満足度調査の意見を反映した取組>

- ・待合ロビーにコーヒーショップを出店させたほか、施設内に患者用のテーブルや椅子を、屋外にパラソル付のテーブルを設置した。
- ・プレイルームや待合室の本やDVDの追加購入、入替を行った。
- ・病棟のトイレのオムツ入れを臭いの発生しにくい製品に更新した。
- ・食堂のテーブルと椅子を高級感のある家具に入れ替えた。

<その他患者サービス向上の取組>

・入院患者の栄養支援の強化を目的としたバイキング形式による食事会、患者が収穫した野菜を利用した昼食、おやつ時間の「お好み焼き」や「パンケーキ」作りなど、患者が楽しく食べられるための工夫を行った。

[ 芹香病院 ]

- ・新棟整備により病院入口から外来までの動線が長くなったため、外来看護師の定期的なラウンドを病院入口まで拡げて実施し、車の乗降などを補助した。
- ・満足度調査の結果について、職員全員が参加する報告会を開催し、意識の共有を図った。

[ せりがや病院 ]

- ・病院入口や外来カウンターに四季折々の飾りを施し、不安を抱えながら来院する患者の気持ちを癒せるような環境作りを心がけた。

[ がんセンター ]

- ・新病院開院に伴い、コーヒーショップやコンビニエンスストア、レストラン、美容室を整備した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・施設の老朽化対応として、病室カーペット床の張替え、病棟浴室・トイレのリフォーム、待合ホールの照明LED化等の工事を実施した。
- ・患者の利便性向上のため、案内表示板、駐車場精算機等を更新した。

(2) 県民への病院・医療情報提供の充実（小項目39）

- ・正しい医療知識の取得や理解促進に向けた公開講座等を開催するとともに、各病院のホームページにおいて各診療科の対象疾患や治療方法を掲載するなど、県民に分かりやすい医療情報の提供に努めた。
- ・ホームページの掲載内容について、文章だけではなく、写真やイラストなどを一緒に掲載するなど、見やすく印象に残るような構成のホームページの作成に努めた。  
また、全ページのアクセス数を調査し、必要としている情報をホームページ上の分かり易い場所に配置するなど、構成の改善を図った。

[ 足柄上病院 ]

- ・公開講座等の開催  
医学講座「大地震、そのときの医療体制は？」  
出前講座「食物アレルギーについて」  
講演会 「糖尿病について」 など
- ・広報誌等の発行  
病院情報誌「かけはし」の発行及びホームページへの掲載 年3回 発行部数 2,000部  
タウンニュース掲載 医療レポート 年5回

[ こども医療センター ]

- ・公開講座等の開催  
「学術集談会」「公開講座」「小児救急医療キッズセミナー」「心肺蘇生講習会」  
「小児がん相談支援室セミナー」 など
- ・広報誌の発行  
「地域連携室だより」年3回 発行部数 3,000部
- ・ファシリティ・ドッグ「ベイリー」をはじめ、各診療科の医師や看護師がテレビ・新

聞等の取材を受けたほか、毎週土曜日、FM戸塚のラジオ番組「ラジオの絆」で病院の様々な取組の紹介を行った。

[ 精神医療センター ]

- ・公開講座等の開催  
「職場結合性うつ病 - 病態と予防」など
- ・広報誌の発行  
センターだより 年1回発行 680部  
( 芹香病院 )  
リワークプログラム 1,000部  
ストレスケア病棟 2,500部  
( せりがや病院 )  
せりがや通信 年4回発行 350部

[ がんセンター ]

- ・公開講座等の開催  
「新たながん放射線治療への挑戦」、「腫瘍内科における化学療法の現状」、「急性白血病とリンパ腫の最新治療」など
- ・広報誌の発行  
がんセンターだより 年3回発行 2,250部

[ 循環器呼吸器病センター ]

・公開医療講座及び出張医療講座を定期的で開催したほか、平成25年7月に神奈川県民ホールにおいて、患者、家族、医療関係者等を対象とした「間質性肺炎・肺線維症患者勉強会」を開催し（参加者329名）、病気や治療方法、生活上の注意点等についての情報提供による患者への支援を行った。

(参考) [ 公開講座の実績 ]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	12回	13回	19回	17回
こども医療センター	9回	8回	12回	19回
芹香病院	4回	7回	7回	15回
せりがや病院	1回	2回	1回	1回
がんセンター	6回	3回	4回	5回
循環器呼吸器病センター	10回	8回	9回	8回
計	42回	41回	52回	65回

### (3) 患者の利便性の向上

待ち時間の短縮の取組（小項目40）

- ・各病院において、待ち時間そのものの短縮を図るだけでなく、患者に与える負担感を軽減する取組を行った。
- ・待ち時間に対する患者満足度調査を行っている足柄上病院及びこども医療センターでは、およそ7割の患者が「満足」から「どちらでもない」との回答であった。
- ・各病院が行った待ち時間対策は次のとおり。

[ 足柄上病院 ]

- ・外来待合室のディスプレイに生活習慣病予防などの医療情報を提供した。

[ こども医療センター ]

- ・平成25年9月に待合ロビーへコーヒーショップを出店させたほか、患者が手術室入室後、家族が決まった場所にいなくともいいように、PHSを渡し、待ち時間を負担に感じさせない対応をとっている。

[ 芹香病院 ]

- ・院外処方推進し、待ち時間の短縮を図った。

[ せりがや病院 ]

- ・効率よく情報収集するために患者の生活歴や病歴を記載するインテーク用紙を見直した。

[ がんセンター ]

- ・新病院開院に伴い、会計や入退院・検査予約、相談などの窓口の一元化を図る患者支援センターを設置し、ワンストップサービスを開始した。また、情報コーナーを設置し、がんに関する各種の情報提供を提供するなど、待ち時間の有効活用に努めた。
- ・外来を受診する際に、患者が院内を自由に移動できる呼出カードを用いたシステムを導入し、待ち時間の負担軽減を推進した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・外来待合室の長椅子を新しいものに入れ替えたほか、待合ホール等の照明をLED化し、明るくなるよう改善した。

(参考) [外来診療待ち時間実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	90分程度	60分程度	60分程度	60分程度
こども医療センター	35分程度	30分程度	30分程度	30分程度
芹香病院	35分程度	30分程度	20分程度	10分程度
せりがや病院	30分程度	20分程度	20分程度	20分程度
がんセンター	50分程度	50分程度	40分程度	40分程度
循環器呼吸器病センター	45分程度	60分程度	60分程度	50分程度

支払方法の多様化の取組 (小項目41)

- ・クレジットカード、デビットカード、コンビニエンスストア収納の利用状況は、次のとおりとなっており、利用合計件数は平成22年度以降毎年度増加している。

(参考) [クレジットカード、デビットカード、コンビニ収納利用件数の実績]

区分	クレジットカード				デビットカード			
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	4,886件	4,993件	5,194件	6,360件	18件	28件	39件	47件
こども医療センター	8,926件	8,947件	9,649件	10,798件	118件	107件	102件	102件
芹香病院	2,068件	1,724件	2,029件	1,130件	175件	96件	131件	84件
せりがや病院	247件	447件	472件	577件	2件	8件	1件	7件
がんセンター	25,692件	25,773件	29,763件	35,347件	1,202件	1,702件	1,189件	1,415件
循環器呼吸器病センター	9,708件	9,505件	10,572件	12,031件	52件	234件	221件	181件
計	51,527件	51,389件	57,679件	66,243件	1,567件	2,175件	1,683件	1,836件

区分	コンビニ収納				合計			
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	960件	850件	801件	611件	5,864件	5,871件	6,034件	7,018件
こども医療センター	81件	187件	951件	1,147件	9,125件	9,241件	10,702件	12,047件
芹香病院	977件	834件	1,601件	769件	3,220件	2,654件	3,761件	1,983件
せりがや病院	211件	271件	531件	209件	460件	726件	1,004件	793件
がんセンター	152件	49件	22件	43件	27,046件	27,524件	30,974件	36,805件
循環器呼吸器病センター	276件	346件	352件	162件	10,036件	10,085件	11,145件	12,374件
計	2,657件	2,537件	4,258件	2,941件	55,751件	56,101件	63,620件	71,020件

[ こども医療センター ]

・クレジットカードによる入院費用支払保証書の提出を受け、月初や退院時の会計手続を不要とするサービスを平成26年2月から開始した。

[ がんセンター ]

・呼出カードによる会計呼出の他、クレジットカード取扱可能な自動精算機を新病院の移転に合わせ1台から3台に増設するなど、患者の利便性の向上を図った。

(4) ボランティア・NPOとの協働（小項目42）

- ・各病院において、ボランティア団体等の協力により、コンサート、行動介助や作品展示など、患者の療養支援を図る多種多様な活動を推進した。
- ・日本語を母国語としない患者の診療等の際に、患者と医療スタッフとのコミュニケーションを補助し、治療を円滑に行うことを目的として、通訳ボランティアの支援を受けた。

延べ利用件数：395件

[ 足柄上病院 ]

・ランパス、杉の子会、松田絵手紙の会、音楽ボランティア会、受付介助ボランティア会の各団体により、多岐にわたる活動や療養支援が行われた。

[ こども医療センター ]

- ・患者の療養環境の向上や通院に対する恐怖感の軽減のため、27団体のボランティア団体(統括組織：オレンジクラブ、構成員341人)の協力により、各種活動(演奏会、遊び相手、生け花、園芸、装飾品の作成・展示等)や療養支援(介添え、院内誘導等)が行われた。
- ・入院患者の家族滞在施設(リラのいえ・利用可能室8室)より、利用希望者等からの利用相談や紹介等を通じて、長期入院患者の家族に対する支援が行われた。

利用家族数：462家族、利用者数：4,505人

延べ宿泊数：2,455日

・NPOから提供されたファシリティドッグを活用し、こころの診療病棟の患者を対象に治療の補助として用いる動物介在療法を実施したほか、病棟のプレイルーム等における患者・家族との触れ合いによる動物介在活動を3,094回実施した。

[ 芹香病院 ]

・琴グループさくら、老寿会をはじめとしたボランティアの協力を得て、患者の社会性を養うことなどを目的としたデイケアプログラムを4回実施した。

[ せりがや病院 ]

・依存症の患者や家族で構成する自助グループ（断酒会・A A）等の協力を得て、入院患者に対し、治療プログラムを実施した。

[ がんセンター ]

・患者サロンや患者会を通じたがん体験者の支援のほか、情報コーナーの活用など、ボランティアと協働した取組を推進した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・ボランティア2団体の協力により、外来患者の案内、移動図書の巡回、ミニコンサート・手品などの催し等を行った。また、結核病棟において絵葉書を作成するレクリエーションを行った。

(参考)[ボランティア団体数]

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	5	5	5
こども医療センター	25	26	27
芹香病院	2	2	7
せりがや病院	6	6	2
がんセンター	2	2	2
循環器呼吸器病センター	2	2	2
計	42	43	45

## 4 医療人材の確保と育成

### (1) 医師の確保と育成

医師の確保と育成の取組（小項目43）

- ・平成26年3月31日時点で、後期臨床研修医を除く医師の必要数314人のところ、現員数が293人（3月31日付退職者を含む。）、充足率は93.3%である。
- ・医師確保については、連携協力のある大学医学部からの医局ローテーションを基本としつつ、それ以外の手法（公募や人的ネットワークの活用）による採用と合わせ、平成25年度は73人（前年度比3人増）を採用した。
- ・後期臨床研修医については、こども医療センター41人（前年度比1人減）、がんセンター30人（同1人減）及び循環器呼吸器病センター7人（増減なし）と合計78人を受け入れた。

(参考)[後期臨床研修医の採用数の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	2人	2人	2人	0人
こども医療センター	43人	43人	42人	41人
精神医療センター	0人	0人	1人	0人
がんセンター	28人	28人	31人	30人
循環器呼吸器病センター	5人	5人	7人	7人
計	78人	78人	83人	78人

[ こども医療センター ]

・横浜市立大学との連携大学院協定に基づき、医師5人が横浜市立大学大学院の客員教授として講義を行ったほか、横浜市立大学大学院生1人を研修医として受入れ、ま

た、医師4人が大学院に就学した。

さらに、平成25年11月に慶應義塾大学医学部・大学院医学研究科と小児医療人材を育成するための連携協力に関する協定を締結した。

- ・県内医療機関が相互に連携して小児医療臨床研修を実施し、小児専門医を育成する「神奈川小児医療専門医研修ネットワーク」の発足に向けた検討を行った。

[がんセンター]

- ・がん専門医・認定医の育成に努め、平成25年度に専門医6名、認定医1名が取得した。

(2) 看護師の確保と育成

看護師の確保と育成の取組(小項目44)

- ・各病院の看護局長を副院長に登用し、看護職のモチベーションアップを図った。
- ・全病院を対象とする採用試験を5回実施した。また、採用時にはその病院に配属する配属確定型試験を6回実施した。合わせて11回の採用試験の実施により、平成26年4月1日現在で165人を採用した。
- ・修学資金の借受生は27人であり、平成25年度の卒業生20名を希望する病院に配属した。

(参考) [修学資金借受生の内訳]

区分	卒業年度				合計
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
足柄上病院	8人	2人	0人	0人	10人
こども医療センター	2人	0人	1人	1人	4人
精神医療センター	1人	0人	0人	0人	1人
がんセンター	6人	2人	0人	0人	8人
循環器呼吸器病センター	3人	0人	0人	0人	3人
未定	0人	1人	0人	0人	1人
合計	20人	5人	1人	1人	27人

- ・1年目の新人看護師にはプリセプターシップをはじめとするきめ細かな研修を実施するとともに、経験年数に従って5段階のステップで能力開発を行うキャリア形成体系に基づき、院内外において研修を実施した。

(参考) [平成25年度 看護職研修の実績(本部実施分)]

コース種類	専門コース	専門コース		管理コース	管理コース	管理コース	計	(参考)平成24年度
	医療安全	ベーシック	アドバンス	キャリア形成	リーダーシップ	労務管理		
参加者数	13人	22人	18人	14人	20人	14人	101人	72人

- ・e-ラーニングによる研修制度を開始し、日々の業務手順の確認に活用するとともに、特に新卒看護師に対しては、業務における不安の解消に役立てることにより、定着率の向上を図った。

- ・新卒看護師の離職率は、平成25年度は5.4%となり、目標値の9.5%未満を達成した。

[新卒看護師離職率の実績と目標値]

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
病院機構の新卒看護師採用人数	-	93人	-	122人	-	127人	-	112人
病院機構の新卒看護師退職人数	-	8人	-	14人	-	7人	-	6人
病院機構の新卒看護師離職率	-	8.6%	9.5%未満	11.5%	9.5%未満	5.5%	9.5%未満	5.4%
神奈川県の新卒看護師平均離職率	-	8.8%	-	8.8%	-	8.8%	-	-
全国の新卒看護師平均離職率	-	8.1%	-	7.5%	-	7.9%	-	-

- ・平成25年度には、新たに専門看護師2人、認定看護師4人を増員し専門看護師等の

有資格者は合計90人（前年度比7人増）となり、専門能力が発揮できるよう配置を行った。

（参考）[専門看護師等の有資格者数実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
専門看護師	10人	15人	21人	23人
小児看護	4人	5人	6人	6人
がん看護	6人	7人	11人	12人
家族看護	0人	2人	2人	2人
慢性疾患看護	0人	1人	1人	1人
精神看護	0人	0人	1人	2人
認定看護管理者	4人	3人	5人	2人
認定看護師	53人	51人	52人	56人
皮膚・排泄ケア	5人	6人	6人	6人
集中ケア	8人	8人	8人	8人
がん性疼痛看護	17人	16人	15人	16人
がん化学療法	3人	3人	4人	4人
乳がん看護	1人	1人	1人	1人
緩和ケア	7人	6人	4人	4人
感染管理	7人	7人	7人	8人
糖尿病看護	1人	0人	2人	2人
小児救急看護	2人	2人	2人	2人
新生児集中ケア	2人	2人	2人	2人
救急看護	0人	0人	1人	1人
摂食・嚥下障害看護	0人	0人	0人	1人
慢性心不全看護	0人	0人	0人	1人
精神科認定看護師	5人	5人	5人	9人
計	72人	74人	83人	90人

・看護専門学校等との連携の下に、看護学生の実習を平成25年度合計1,584人（前年度比22人減）受け入れた。

（参考）[看護実習受入実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
保健福祉大学	139人	160人	306人	338人
衛生看護専門学校	241人	197人	203人	231人
よこはま看護専門学校	501人	613人	321人	328人
平塚看護専門学校	93人	75人	155人	99人
その他	682人	489人	621人	588人
計	1,656人	1,534人	1,606人	1,584人

[こども医療センター]

・神奈川県立保健福祉大学と小児看護・栄養分野での教育・研究で連携する協定を締結し、実習生の受け入れ、職員の講師派遣等について従来からの連携を一層強化するとともに、職員が在籍したまま保健福祉大学大学院へ進学することが可能となった。

なお、平成26年度から看護師が1人進学し、NICUでの母子ケアなどを研究することが決定した。

### (3) コメディカル職員等の確保と研修の充実

コメディカル職員等の確保と研修の実施（小項目45）

・コメディカル職員については、年齢が30歳までの一般採用区分と医療機関等での勤務経験3年以上の者を対象とする経験者採用区分を設けることで、平成26年4月1日現在で前年同期比6人増となる311人を確保した。

・福祉職については、職場の実態に即し、相談・心理・介護の分野ごとに試験区分を設け、業務に応じた職員の確保に努めた。

・コメディカル職員等の資質の向上のため、県機関、各種学会等が実施する外部研修に参加させ、専門性の向上を図るとともに、チームワーク力強化研修を実施し、コミ

## コミュニケーション能力の向上を図った。

(参考) [福祉職・コメディカル職種の採用数の実績]

区分	平成23年度採用			平成24年度採用			平成25年度採用			平成26年度採用		
	一般	経験者	計	一般	経験者	計	一般	経験者	計	一般	経験者	計
福祉職	3人	3人	6人	1人	9人	10人	-	7人	7人	-	6人	6人
薬剤師	5人	4人	9人	6人	3人	9人	8人	3人	11人	4人	3人	7人
診療放射線技師	2人	1人	3人	2人	4人	6人	2人	5人	7人	-	3人	3人
臨床検査技師	6人	-	6人	-	8人	8人	-	4人	4人	3人	-	3人
理学療法士	1人	-	1人	-	1人	1人	-	2人	2人	2人	-	2人
臨床工学技士	1人	-	1人	-	1人	1人	-	1人	1人	-	-	-
保育士	1人	-	1人	1人	-	1人	-	2人	2人	-	-	-
管理栄養士	-	2人	2人	-	2人	2人	-	-	-	-	-	-
栄養管理科長	-	1人	1人	-	1人	1人	-	1人	1人	-	-	-

### [こども医療センター]

- ・神奈川県立保健福祉大学と小児看護・栄養分野での教育・研究で連携する協定を締結し、実習生の受け入れ、職員の講師派遣等について従来からの連携を一層強化するとともに、職員が在籍したまま、保健福祉大学大学院へ進学することが可能となった。  
なお、平成26年度から栄養士が1人進学し、病児の栄養などを研究することが決定した。

### [がんセンター]

- ・円滑な重粒子線治療施設の運営を行うため、放射線治療医、医学物理士、診療放射線技師を先行して重粒子線治療を行っている施設へ研修のため派遣するなどにより、計画的な人材育成を図った。

## (4) 勤務環境の改善の取組（小項目46）

- ・看護師など医療従事者の多様な勤務形態に合わせた保育を実施するため、保育時間の延長や週2日程度の24時間保育を引き続き実施した。
- ・年次休暇を取得しやすくするような職場環境の整備のため、看護局長会議や事務局長会議などを通じて職員の年次休暇取得促進に向けた取組を行った。

(参考) [職員1人当たりの年休平均取得日数の実績]

平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
8.4日	8.7日	9.6日	8.9日

- ・業務の見直しや効果的・効率的な業務執行を進めるスキルを習得するため、「問題解決手法」や「コミュニケーション手法」に関する研修を実施した。
- ・新規採用職員等を対象としたメンタルヘルスに関する研修を実施し、ワークライフバランスの重要性について理解を深めた。
- ・ワークライフバランスを充実するため、短時間勤務常勤職員や夜間専従常勤職員などの多様な勤務形態の導入に向けた検討を行った。
- ・平成25年4月より、それまで骨髄移植のみであったドナー休暇について、末梢血幹細胞移植のための末梢血幹細胞の提供に係る必要な期間も休暇を取得できるようにした。
- ・平成26年1月より、子の看護休暇の取得日数を1年につき従来の5日から6日とした（子を1人養育する場合）。
- ・ワークライフバランスの一層の充実を図るため、リフレッシュ休暇の対象職員に周知を図った。

(参考) [リフレッシュ休暇取得率]

平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
44%	34%	39%	49%

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 業務運営体制の確立

業務運営体制の確立の取組（小項目47）

- ・理事会において機構の運営方針等に関する意思決定を行うとともに、経営戦略会議において各病院の患者データや予算執行状況を踏まえた経営分析を行うなど、より一層の経営改善に向けた取組を実施した。
- ・各病院に医療職及び看護職を副院長に登用し、職員への経営状況の周知を効率的に行い、職員の経営意識の向上に努めるなど、病院の合理的な運営を行った。
- ・経営戦略会議で、月次決算及び四半期ごとの予算執行状況を踏まえた経営分析等を行い、計画の達成に向けた取組を進めた。また、各病院で経営改善に取り組んだ事例の発表を行い、他病院で参考とした。
- ・会計規程及び契約事務取扱規程を見直し、予算執行及び契約締結に係る権限の一部を病院事務局長等から副事務局長等に移管し、意思決定の迅速化及び事務執行の効率化を図った。

### 2 効率的・効果的な業務運営と経営改善

#### (1) 効率的・効果的な業務運営

##### ア 人事・予算の弾力的運用

##### (ア) 診療体制・人員配置の弾力的運用（小項目48）

- ・一般採用試験と経験者採用試験を併せて実施する等の取組により効果的に正規職員を確保しつつ、医師等医療スタッフの配置を弾力的に行った。

また、必要に応じて、契約職員・非常勤職員・短期非常勤職員・再雇用職員など多様な勤務形態の職員を活用することにより、医療ニーズや医療環境等の変化に的確に対応できる体制を整えた。

##### (イ) 予算執行の弾力化（小項目49）

- ・備品購入費の配当において、病院毎の経営成績を反映した配分方法を導入した。

##### 【通常備品の配分基準】

- ・機能保持のため基礎的に配分する額（資産規模に応じた配分）：総額のうち3分の1について通常備品保有金額の割合を基礎として配分。
- ・老朽化した備品の更新を促すため配分する額（通常備品のうち購入後10年超の機器の割合に応じた配分）：総額のうち3分の1について10年超の通常備品の保有金額の割合を基礎として配分。
- ・経常利益の計画達成率により配分する額（経営成績を反映した配分）：総額のうち3分の1について年度計画における経常利益の達成率を基礎として配分。

##### イ 事務職員の専門性の向上の取組（小項目50）

- ・一般採用試験に加え、医療機関や民間会社などの職務経験があり、即戦力となる社会人経験者を対象とする経験者採用試験を行い、9人の事務職員を採用し、平成26年4月1日付で本部事務局、各病院（総務課、医事課、経営企画課）に配置した。
  - ・病院経営に係る基礎能力等の向上や各病院毎の経営状況・類似病院との比較分析を目的とした簿記研修を実施した。
- また、病院経営に係る基礎能力等の向上を目的に、独立行政法人制度に関する研修等も実施した。

- ・配属所属以外の病院等において業務を体験又は経験することを通じて、幅広い視野

を持ち、自らの業務の改善に役立てることを目的に、病院等での現場研修を実施した。

- ・病院経営に係る基礎能力、応用能力、企画能力及び経営分析能力等を養成、強化する取組として、病院経営に関する問題解決能力強化研修を実施した。
- ・医療制度の動向や病院経営のあり方等を通して、業務改善（改革）等を考える上での必要な知識の習得を図るとともに、自らの病院や担当業務の経営上の位置付けについて認識を深めるため、医療経営研修を実施した。

#### ウ 職員の経営参画意識の向上の取組（小項目51）

- ・幹部職員向けの研修として、情報セキュリティに関する研修を開催した。
- ・診療報酬改定を踏まえた病院経営に関する研修を開催した。
- ・前年度決算について、他病院との比較を含めた講義形式での解説を行い、経営状況に係る認識の共通化を図った。
- ・質の高い医療の提供や安全で安心な医療の提供等をテーマとして、職員が実施する業務についての改善や工夫のあった取組について、理事長表彰を実施した。また、表彰された取組が所属を超えて連携・拡大し、病院機構全体として、更なる質の高い医療の提供等に資することを目的に、新たに受賞者発表会を実施した。

理事長表彰件数 38件（37団体及び個人1人）

発表件数 6件（団体6件）

- ・事務職員を対象に医療制度の動向や、病院経営のあり方等を通して、業務改善（改革）等を考える上での必要な知識の習得を図るとともに、自らの病院や担当業務の経営上の位置づけについて認識を深めるため、経営意識の醸成を図る医療経営研修を実施した。
- ・事務職員を対象に病院経営に係る基礎能力・応用能力、企画能力、経営分析能力等を養成、強化する取組として、病院経営に関する問題解決能力強化研修を実施した。
- ・備品購入費の配当において、病院毎の経営成績を反映した配分方法を導入した。

#### エ ITの活用による効率的な医療提供の推進（小項目52）

[こども医療センター]

- ・電子カルテシステムを活用するなどして、小児医療に特化した41項目の「診療の質（QI）」に係る指標を作成し、公表した。

[精神医療センター]

- ・精神医療センターにおいて、平成26年の新病院開院に伴う電子カルテシステムの構築に着手した。

[循環器呼吸器病センター]

- ・平成27年1月のオーダリングシステムの更新に向けて、電子カルテをはじめとした新たな医療情報システム導入のための仕様書の策定等の取組を進め、企画提案審査を実施してシステム開発事業者を決定した。

#### オ 効率的な事務執行の推進（小項目53）

- ・会計規程及び契約事務取扱規程を改定し、予算執行及び契約締結に係る権限の一部を病院事務局長等から副事務局長等に移管し、意思決定の迅速化及び事務執行の効率

化を図った。

- ・医薬品・検査試薬・診療材料について、共同あっせん調達を実施した。また、診療材料については新たに神奈川リハビリテーション事業団を含めて調達を行いスケールメリットを生かした入札を進めた。

医薬品値引き率 上期：12.1% 下期：12.4%

- ・消耗品の共同購入について、採用品目を40品目から54品目に拡大した。
- ・医療機器について、シリンジポンプの共同購入も行うことで、経費の節減を図るとともに、事務執行を効率化した。
- ・循環器呼吸器病センターで、診療材料管理運営業務及び滅菌消毒業務についてS P D方式を導入した。
- ・電力の購入に際し、各病院で入札を実施し、足柄上病院、精神医療センター 芹香病院及び循環器呼吸器病センターでP P S（特定規模電気事業者）と契約を締結した。
- ・こども医療センターで、委託業務等の見直しに関するコンサルタントを導入し、経費の縮減を図った。

## (2) 経営改善の取組

### ア 収益の確保

収益の確保の取組（小項目54）

平成25年度の患者数の実績については次のとおり。

[病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の目標値]

区分	病床利用率				平均在院日数				入院実患者数			
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	80.2%	77.6%	78.0%	78.5%	13.1日	12.5日	12.3日	12.1日	5,900人	6,000人	6,100人	6,370人
こども医療センター（病院） （施設）	85.1%	82.8%	85.8%	83.1%	14.6日	14.1日	15.4日	14.7日	7,000人	7,030人	6,687人	7,070人
	85.0%	81.1%	84.9%	83.6%	(93.0日)	(95.8日)	(89.7日)	(83.2日)	300人	280人	311人	390人
芹香病院	83.0%	76.8%	79.9%	78.6%	133.3日	100.1日	126.4日	134.9日	700人	870人	613人	796人
せりがや病院	80.0%	73.3%	70.9%	65.0%	70.8日	70.7日	67.0日	53.6日	330人	300人	309人	400人
がんセンター	85.4%	77.1%	77.8%	79.4%	16.2日	14.7日	14.4日	14.0日	8,000人	7,900人	8,000人	8,000人
循環器呼吸器病（一般） センター（結核）	81.4%	82.8%	82.9%	83.2%	13.6日	13.5日	13.5日	12.4日	3,900人	4,010人	4,000人	4,497人
	74.8%	65.6%	62.8%	61.1%	(64.0日)	(60.0日)	(62.0日)	(65.6日)	250人	240人	220人	235人

[病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の実績]

区分	病床利用率				平均在院日数				入院実患者数			
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	76.2%	74.5%	78.7%	74.8%	12.3日	11.9日	12.2日	11.5日	5,968人	6,215人	6,384人	6,243人
こども医療センター（病院） （施設）	82.6%	82.8%	82.6%	83.0%	14.7日	15.4日	14.3日	14.2日	6,757人	6,736人	7,180人	7,257人
	85.2%	85.6%	84.5%	89.2%	(69.1日)	(77.9日)	(77.5日)	(101.1日)	405人	429人	434人	365人
芹香病院	74.8%	65.9%	62.9%	69.7%	122.6日	123.5日	115.5日	132.5日	686人	797人	802人	781人
せりがや病院	65.9%	61.2%	55.8%	49.2%	60.1日	52.3日	42.7日	45.9日	320人	386人	426人	355人
がんセンター	76.0%	72.2%	77.8%	77.0%	14.9日	14.3日	14.0日	13.4日	7,753人	7,967人	8,703人	8,749人
循環器呼吸器病（一般） センター（結核）	84.7%	80.0%	77.0%	78.5%	13.1日	13.0日	12.2日	12.2日	4,211人	4,157人	4,188人	4,320人
	64.5%	61.4%	58.1%	58.8%	(58.6日)	(64.5日)	(66.1日)	(71.1日)	241人	241人	274人	204人

新たな施設基準の取得（小項目55）

- ・診療報酬改定を見据え、研修会の開催や参加を積極的に進めた。
- ・中央社会保険医療協議会の議論について情報収集に努め、平成26年度予算に反映した。
- ・こども医療センターにおいて、診療報酬請求の精度調査を委託し、経営改善の参考とした。
- ・幹部職員で構成される経営戦略会議及び経営会議において査定状況の情報共有を図った。

各病院の査定率については次のとおり。

(参考) [審査機関による査定率の実績]

区分	平成24年度	平成25年度
足柄上病院	0.220%	0.300%
こども医療センター	0.580%	0.570%
芹香病院	0.055%	0.046%
せりがや病院	0.009%	0.051%
がんセンター	0.170%	0.180%
循環器呼吸器病センター	0.320%	0.450%

平成25年度に新たに取得した施設基準

[ 足柄上病院 ]

- ・ 栄養サポートチーム加算
- ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・ 対外衝撃波腎・尿管結石破碎術

[ こども医療センター ]

- ・ 緩和ケア診療加算
- ・ 退院調整加算
- ・ 外来緩和ケア管理料
- ・ ロービジョン検査判断料
- ・ 皮下連続式グルコース測定
- ・ 小児入院医療管理料 1 (クリーン病棟)
- ・ 外来化学療法加算 1

[ がんセンター ]

- ・ 栄養サポートチーム加算
- ・ 組織拡張器による再建手術
- ・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・ 心臓ペースメーカー指導管理料植込型除細動器移行期加算

診療報酬を確保するための総合的な取組 (小項目56)

- ・ 分べん介助料について、平成26年 1 月 1 日より時間内は18万円 (改定前：12万円)、時間外は21万 6 千円 (改定前：14万 9 千円) に改定した。

(参考) [分べん介助料改定に伴う実績]

区分	4月～12月		1月～3月	
	件数	一件あたり単価	件数	一件あたり単価
足柄上病院	94件	463,490円	24件	494,885円
こども医療センター	70件	469,761円	23件	523,388円

普通分べんのみ計上

- ・ セカンドオピニオンに係る料金について平成25年 4 月 1 日より基本料金を13,130円 (改定前：7,440円) に改定した。

(参考) [セカンドオピニオン件数の実績]

区分	件数	金額
平成25年度	886件	11,633,180円
平成24年度	819件	6,093,360円

(参考) [年度末個人未収金の状況]

区分	合計
平成25年度末	303,562,357円
平成24年度末	287,125,368円
差引	16,436,989円

[こども医療センター]

クレジットカードによる入院費用支払保証書の提出を受け、月初や退院時の会計手続を不要とするサービスを平成26年2月から開始した。

[がんセンター]

・新病院開院により、有料個室の病床割合を増やし、療養環境の向上及び収益の確保を図った。

有料個室数：旧病院：30床 新病院：63床

## イ 費用の削減

材料費節減の取組(小項目57)

・医薬品・検査試薬・診療材料について、共同あっせん調達を実施し、入札時の予定価格策定においてはベンチマークシステムの活用により、他医療機関と比較した適切な価格を設定するよう留意した。

また、診療材料については、新たに神奈川リハビリテーション事業団を含めて調達を行い、スケールメリットを生かした入札を進めた。

医薬品値引き率 上期：12.1% 下期：12.4%

- ・消耗品の共同購入について採用品目を40品目から54品目に拡大した。
- ・医療機器について、シリンジポンプの共同購入を行うことで、経費の節減を図るとともに、事務執行を効率化した。

(参考) [後発医薬品の品目採用率及び金額採用率の実績]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
後発医薬品の品目採用率	12.2%	12.8%	13.4%	14.3%
後発医薬品の金額採用率	5.6%	5.7%	5.1%	5.1%

(参考) [病院別の後発医薬品の採用率の内訳]

区分	品目数	金額
足柄上病院	12.7%	11.5%
こども医療センター	6.2%	2.5%
芹香病院	12.8%	5.6%
せりがや病院	14.4%	5.2%
がんセンター	12.4%	5.3%
循環器呼吸器病センター	15.2%	5.3%
合計	14.3%	5.1%

経費節減の取組(小項目58)

・電力の購入に際し、各病院で入札を実施し、足柄上病院、精神医療センター芹香病院及び循環器呼吸器病センターではP P S(特定規模電気事業者)と契約を締結

した。

・神奈川県<sup>1</sup>の給与減額措置を踏まえ、平成25年4月1日から平成26年3月31日の間、職員の給料の減額措置を実施した。

[ こども医療センター ]

・総合保守管理業務委託や警備業務委託について仕様を見直したほか、成功報酬契約のコンサルタントを導入し、現行契約単価について見直しを行い、委託経費の節減を図った。

[ 精神医療センター ]

・医療観察法病棟の通年化に伴い光熱水費が増加したことから、所内会議において節電の徹底を図った。

・病院内の各所営繕工事において、管理委託業者へ必要な消耗品を支給し、修繕することなどにより、専門業者への発注件数を削減し、経費削減を図った。

[ がんセンター ]

・新病院に移転するにあたり、不要となったフィルムや旧病院の不用品処分において積極的に売却を行った結果、廃棄処分費用を削減するとともに収入を得た。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・SPD（診療材料の調達・管理運営業務）及び滅菌消毒等業務について平成25年4月より業務委託し、業務の効率化・合理化を図るとともに、物品の適正な在庫管理に取り組み、費用の削減を図った。

### 第3 決算の状況（小項目59）

- ・「平成25年度における業務実績報告 3病院ごとの取組状況（10、12、14、16、18ページ）」を参照
- ・県立病院機構全体の経常収支比率は101.2%となった。なお、医業収益に対する給与費の比率は64.7%、医業収支比率は124.1%となった。

[決算状況]

(1) 県立病院機構全体

経常収支比率 101.2%

医業収益に対する給与費の比率 64.7%

医業収支比率 124.1%

総損益 1,928百万円

(2) 足柄上病院

経常収支比率 98.3%

医業収益に対する給与費の比率 71.1%

医業収支比率 128.0%

総損益 112百万円

- (3) こども医療センター  
 経常収支比率 103.4%  
 医業収益に対する給与費の比率 69.8%  
 医業収支比率 124.8%  
 総損益 489百万円
- (4) 芹香病院  
 経常収支比率 102.6%  
 医業収益に対する給与費の比率 120.8%  
 医業収支比率 165.8%  
 総損益 100百万円
- (5) せりがや病院  
 経常収支比率 92.2%  
 医業収益に対する給与費の比率 116.7%  
 医業収支比率 177.4%  
 総損益 67百万円
- (6) がんセンター  
 経常収支比率 101.5%  
 医業収益に対する給与費の比率 48.2%  
 医業収支比率 114.0%  
 総損益 2,259百万円
- (7) 循環器呼吸器病センター  
 経常収支比率 102.7%  
 医業収益に対する給与費の比率 52.6%  
 医業収支比率 120.1%  
 総損益 175百万円

(参考) [収支計画]

区分	経常収支比率				医業収益に対する給与費の比率				医業収支比率			
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県立病院機構全体	100.2%	100.8%	101.4%	99.5%	70.5%	70.6%	69.4%	65.4%	131.5%	128.1%	126.4%	125.1%
足柄上病院	94.0%	95.8%	98.6%	99.4%	78.8%	78.5%	77.9%	71.6%	138.0%	138.8%	130.1%	125.7%
こども医療センター	105.3%	102.1%	103.9%	105.0%	71.4%	74.8%	69.9%	66.7%	129.1%	131.1%	124.9%	121.5%
芹香病院	95.8%	96.5%	98.9%	99.0%	120.8%	119.0%	134.5%	115.5%	168.9%	165.3%	182.9%	160.4%
せりがや病院	94.3%	94.6%	95.2%	96.5%	138.6%	133.7%	132.4%	118.2%	188.9%	184.3%	181.7%	165.9%
がんセンター	99.6%	103.6%	103.0%	94.6%	56.1%	54.8%	54.5%	53.2%	121.7%	115.7%	115.1%	122.9%
循環器呼吸器病センター	99.7%	106.9%	107.4%	108.9%	60.6%	53.1%	52.3%	49.7%	128.2%	116.4%	113.0%	109.4%

(参考) [決算状況]

区分	経常収支比率				医業収益に対する給与費の比率				医業収支比率			
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県立病院機構全体	103.2%	100.1%	102.1%	101.2%	67.9%	71.8%	69.2%	64.7%	126.1%	129.2%	125.4%	124.1%
足柄上病院	99.2%	96.6%	98.4%	98.3%	78.0%	80.9%	76.1%	71.1%	135.5%	136.3%	129.4%	128.0%
こども医療センター	107.5%	103.2%	101.7%	103.4%	70.7%	73.0%	72.4%	69.8%	126.0%	128.9%	128.7%	124.8%
芹香病院	98.7%	90.4%	97.2%	102.6%	116.6%	133.5%	139.3%	120.8%	167.7%	184.9%	193.7%	165.8%
せりがや病院	100.2%	102.2%	99.3%	92.2%	129.4%	125.0%	125.9%	116.7%	182.8%	176.0%	180.7%	177.4%
がんセンター	104.0%	101.1%	107.9%	101.5%	53.6%	57.9%	52.2%	48.2%	114.3%	119.1%	109.1%	114.0%
循環器呼吸器病センター	104.0%	105.0%	103.3%	102.7%	51.7%	54.6%	55.1%	52.6%	120.1%	118.0%	119.4%	120.1%

#### 第4 その他業務運営に関する重要事項（小項目60）

##### 人事に関する事項

##### (1) 適切な職員配置について

・平成25年4月1日に採用した事務職員については、本部事務局では総務企画課1人、財務課1人の計2人を配置したほか、各病院の診療報酬等の医業収益確保を図るため医事課に5人、企画部門の機能強化を図るため経営企画課に4人、管理部門の体制強化を図るため総務課等に9人を配置した。

・精神医療センターの総合整備やがんセンターの重粒子線治療装置の導入に向けた体制の充実など、医療ニーズや医療環境の変化等に的確に対応するとともに、円滑な病院運営を行うために、平成25年度中に正規職員300人（医師73人、看護師164人、コメディカル職種27人、事務等36人）を採用した。

##### (2) 的確な人事管理について

・評価者研修の実施などにより人事評価システムの適切な運用に努めるとともに、人事評価実施に伴う職員への面談などを通して、職員の能力開発や人材育成への活用を図った。